

市民アンケート結果

1. 調査の実施概要

調査対象	・ 大田市民（住民基本台帳から抽出）を対象に実施 ・ 年代別、男女別、地区別にそれぞれ人口の割合から人数を算出し、無作為に抽出
実施期間	令和2（2020）年8月
調査方法	郵送による調査票配布、郵送による回収
調査数	2,500件
有効回答数	979件
有効回答率	39.2%

【調査対象内訳】

・ 年代別

年 代	人 数
10～29	211
30～39	260
40～49	294
50～59	302
60～69	479
70～79	462
80～89	353
90～	139
計	2,500

・ 男女別

	人 数
男	1,135
女	1,365
計	2,500

・ 地区（ブロック）別

ブロック	人 数
中央（大田、川合、久利、大屋）	826
西部（長久、鳥井、静間、五十猛）	507
東部（久手、波根、朝山、富山）	457
三瓶（三瓶、山口）	123
高山（大森、水上、祖式、大代）	110
温泉津	200
仁 摩	277
計	2,500

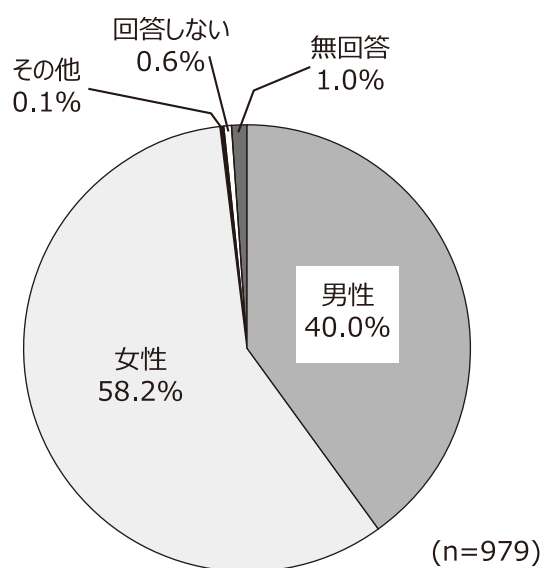
2. 報告書記載の留意点

- ・ S A（シングルアンサー）での問いの場合、割合を合計すると100%にならない場合があります。これは小数点第2位を四捨五入しているためです。
- ・ 年代別でのクロス集計を実施していますが、30代・20代・10代はそれぞれ回答数が100に満たないため、クロス集計の信頼度が低くなります。そのため、「30代以下」としてまとめてクロス集計を行っています。

3. 調査結果

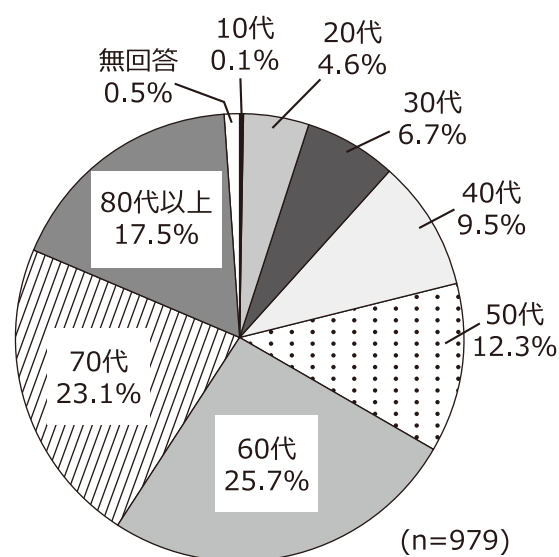
問1. 性別

- ・ 「女性」が58.2%で半数以上を占めている。



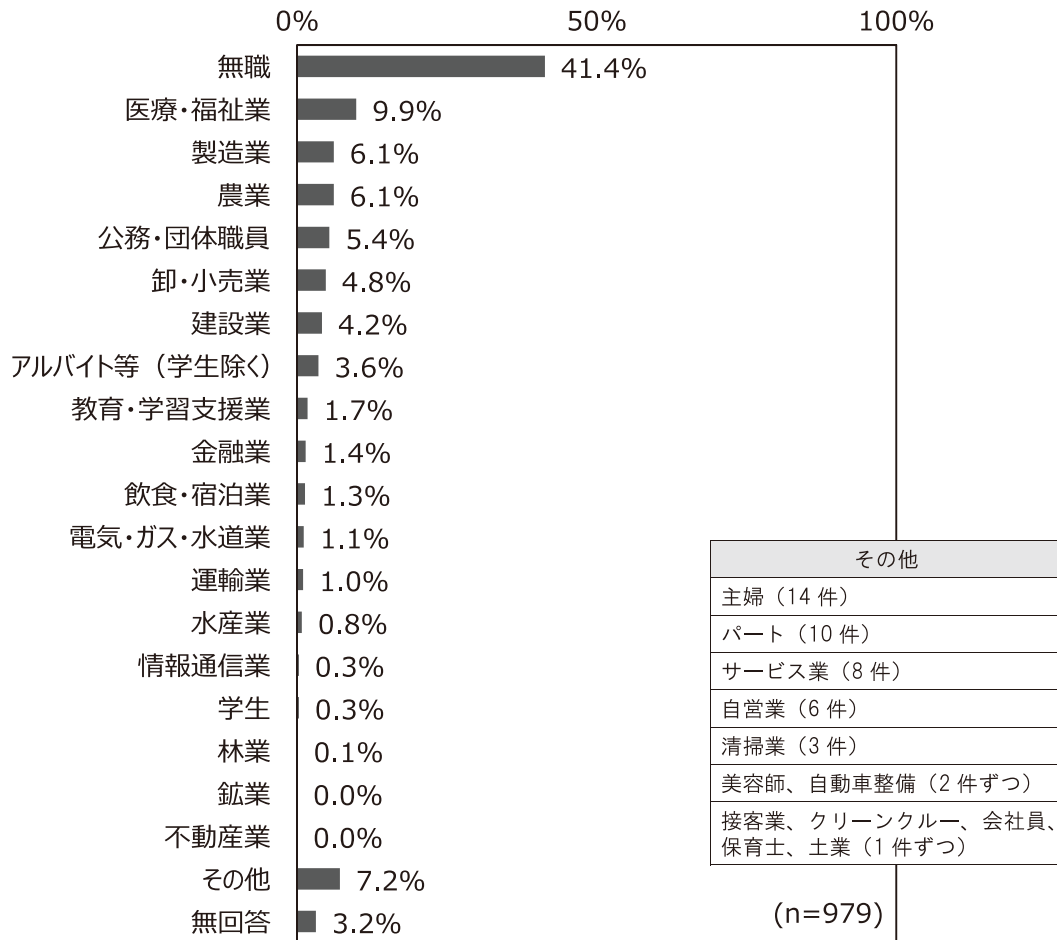
問2. 年代

- ・ 「60代」が25.7%で最も多く、次いで「70代」が23.1%、「80代以上」が17.5%となり、この世代で66.3%を占めている。「10代、20代」は4.7%に留まっている。



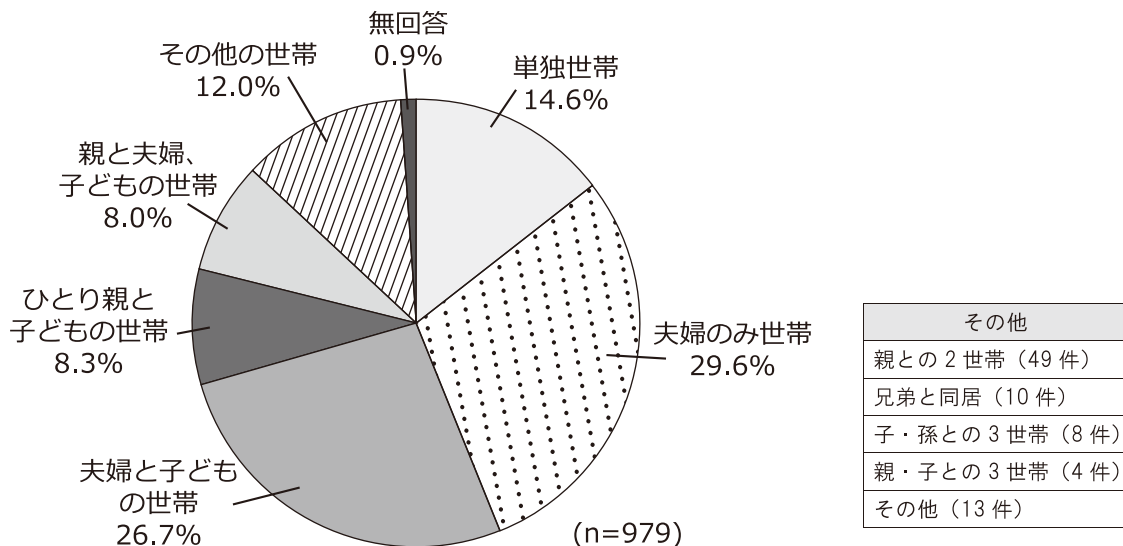
問3. 職業

・「無職」が41.4%で最も多く、次いで「医療・福祉業」が9.9%、「製造業」、「農業」が6.1%などとなっている。



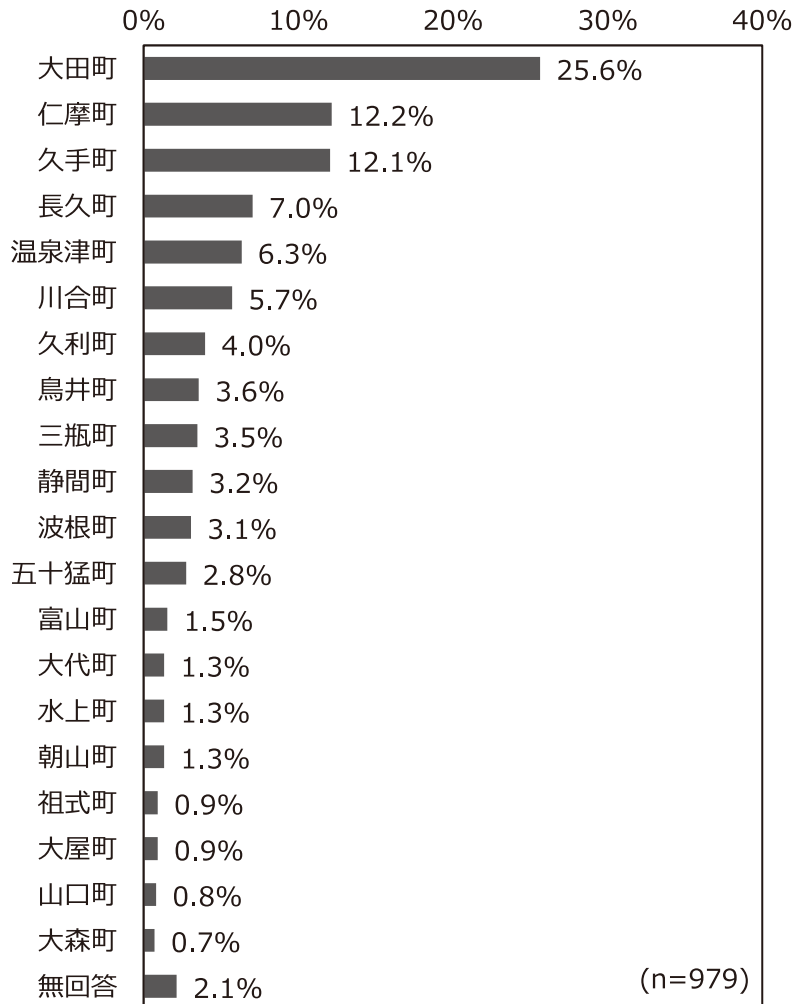
問4. 世帯構成

・「夫婦のみ世帯」が29.6%で最も多く、次いで「夫婦と子どもの世帯」が26.7%、「単独世帯」が14.6%などとなっている。



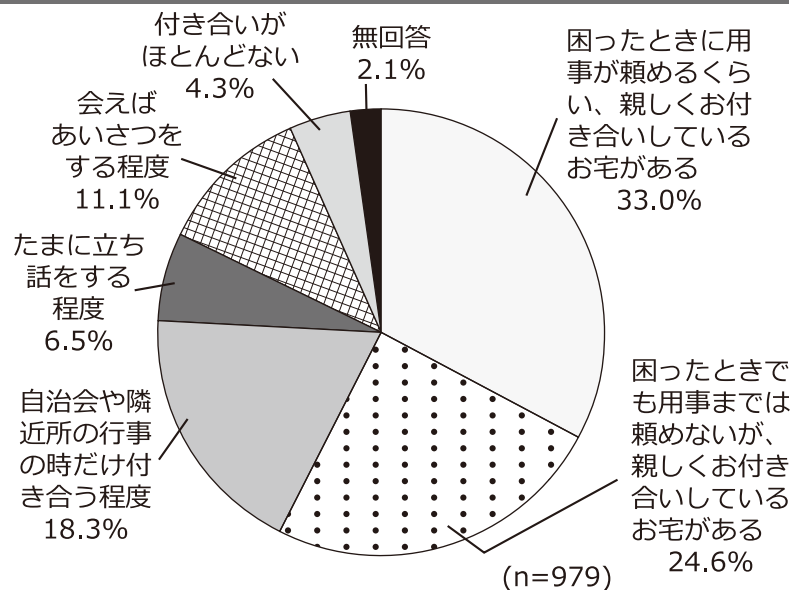
問5. 居住地

・「大田町」が25.6%で最も多く、次いで「仁摩町」が12.2%、「久手町」が12.1%などとなっている。



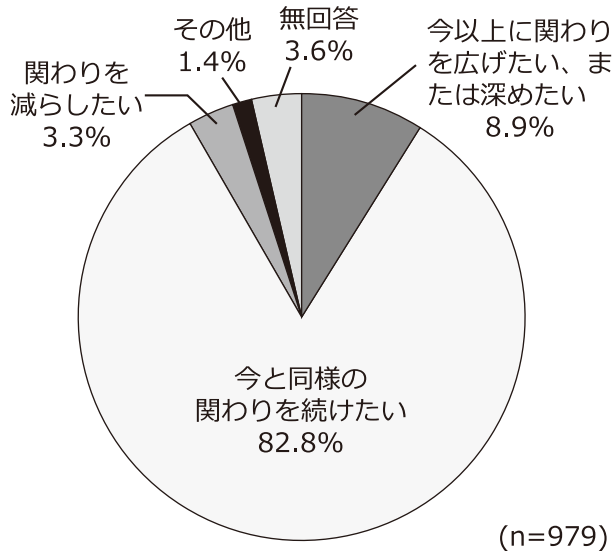
問6. あなたは、近所の方々とどの程度のお付き合いをしていますか。(単数回答)

・「困ったときに用事が頼めるくらい、親しくお付き合いしているお宅がある」が33.0%で最も多く、次いで「困ったときでも用事までは頼めないが、親しくお付き合いしているお宅がある」が24.6%、「自治会や隣近所の行事の時だけ付き合う程度」が18.3%などとなっている。



問7. あなたは、これからの近所の方々との関わりについてどうお考えですか。(単数回答)

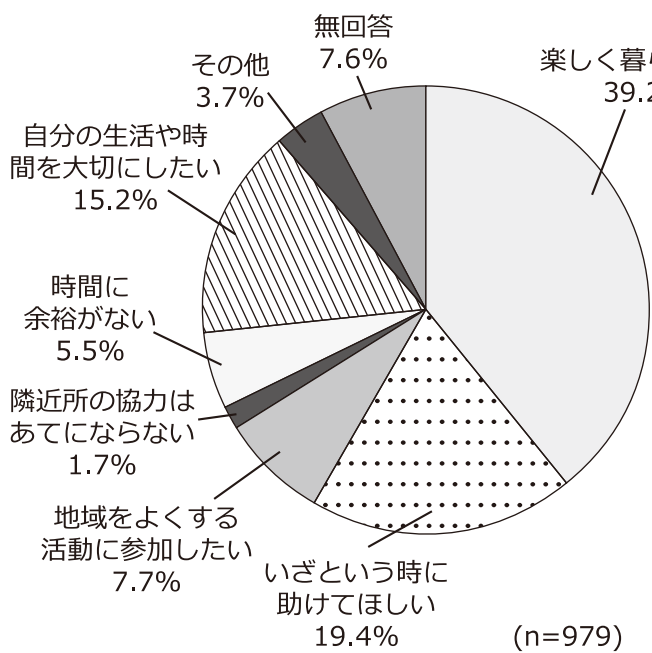
・「今と同様の関わりを続けたい」が82.8%で最も多く、次いで「今以上に関わりを広げたい、または深めたい」が8.9%、「関わりを減らしたい」が3.3%などとなっている。



その他
身体機能の低下により関わりができない (2件)
関わらなくてよい (2件)
高齢者二人の家族だから
今以上に関わりを広げたい人もいれば、あまり関わりたくない人もいる。
どうしても必要な行動のみ(葬儀、草刈)参加したい
こちらから積極的に関わりを持つ事は苦手だが、何かあれば手伝いたい
あまり迷惑をかけないように心がけていますが、それでもお世話さまになったかもしれません。
必要なときのみ

問8. 問7でそれぞれの選択肢を選ばれた理由はなんですか。(単数回答)

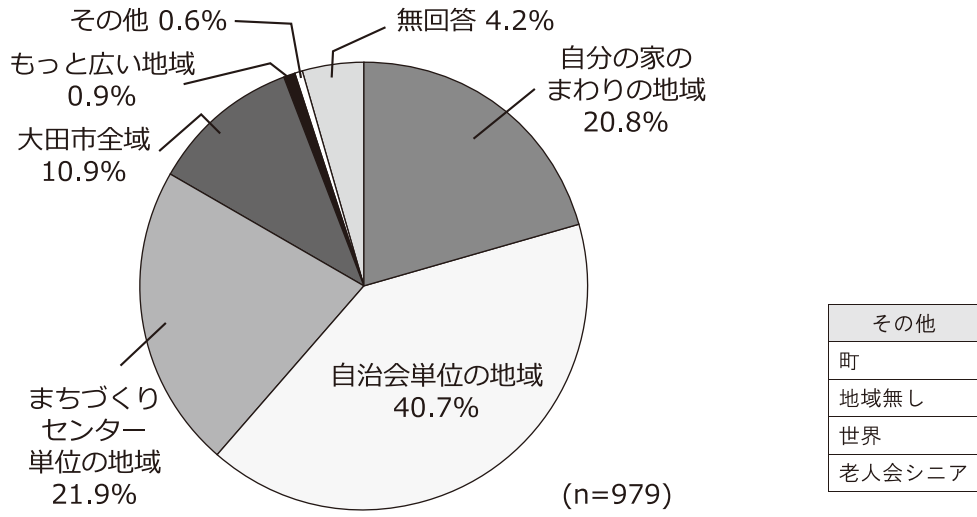
・「楽しく暮らしたい」が39.2%で最も多く、次いで「いざという時に助けてほしい」が19.4%、「自分の生活や時間を大切にしたい」が15.2%などとなっている。



その他
身体機能が低下しているから (6件)
引っ越しする予定だから (3件)
面倒だから
アパートの為、入居者の出入りがよく変わるのであいさつ程度で良いかと思っています。
相互扶助の関係を作りたい
遠くの親戚より近くに他人。困った時頼られたり頼ったりできる
集団住宅なので生活音などのトラブルにならないようにするため
若い世代がもっと地域に関わり盛り上げていかないといけないと思っているから
昔からの古い風習に合わせているだけトラブルを起こしたくないから。
生活リズムが違ってあまり顔を合わせない
一人暮らしの方もおられますので
つかず離れずがいいかなと
現状に大変満足しているから

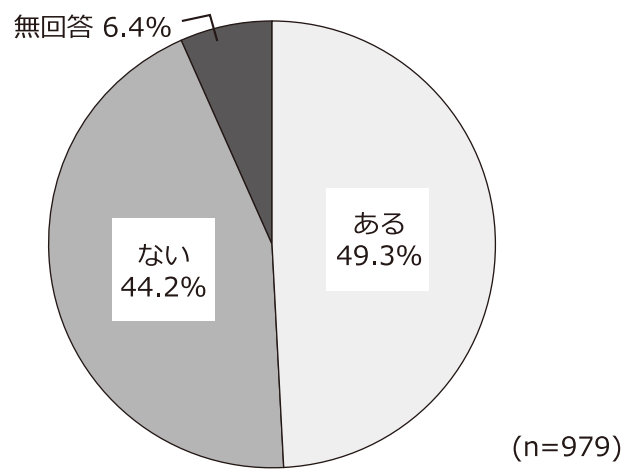
問9. あなたの考える「地域」とはどの範囲のことをいいますか。(単数回答)

・「自治会単位の地域」が40.7%で最も多く、次いで「まちづくりセンター単位の地域」が21.9%、「自分の家のまわりの地域」が20.8%などとなっている。

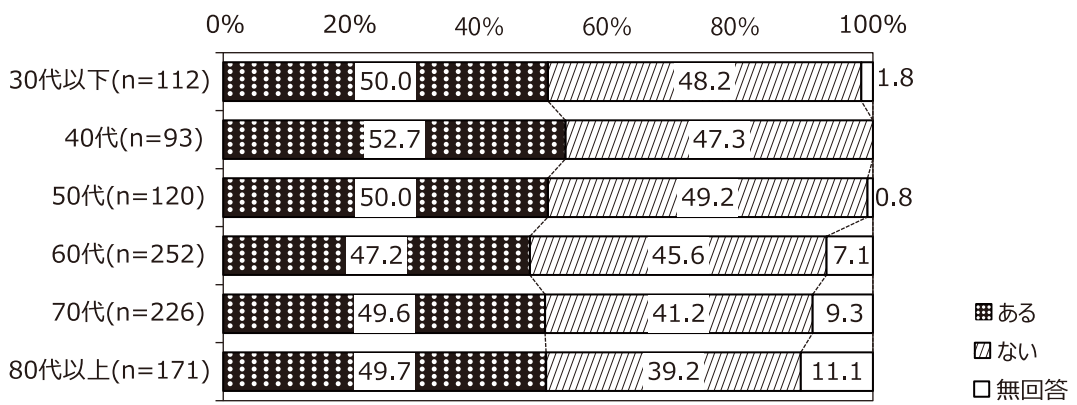


問10. あなたは、地域の方々に支えられた(助けられた)と感じることはありますか。(単数回答)

・「ある」、「ない」がそれぞれ半数ずつを占めている。



【クロス集計(年代別)】「支えられたと感じる」人は、年代別に大きな違いはない。



【問 10 において「1. ある」を選んだ方のみ】

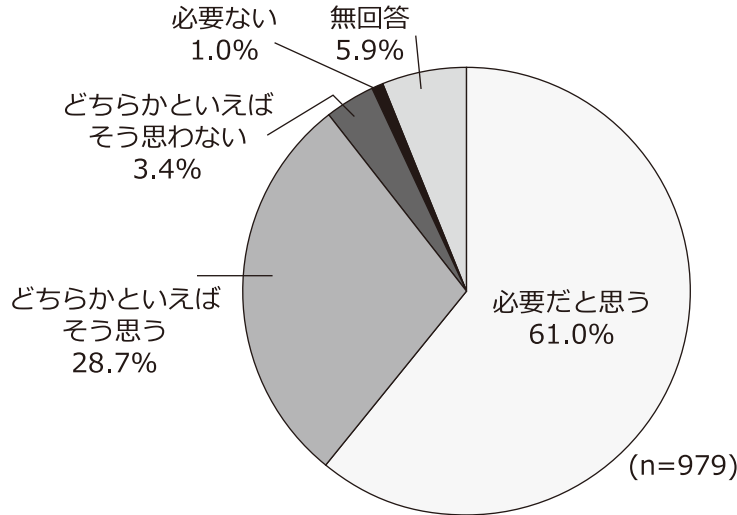
問11. あなたが地域に支えられた(助けられた)と感じたのはどんなときでしたか。(自由回答)

自由回答
冠婚葬祭 (77 件)
病気・けがをしたとき (62 件)
話し相手・声かけをしてくれたとき (60 件)
子育て相談・子どもの見守り (47 件)
困った時に助けてくれた (23 件)
災害時 (42 件)
自治会活動 (35 件)
食材・食事のお裾分けをしてくれたとき (26 件)
環境美化 (32 件)
情報提供 (21 件)
買物・通院等の送迎 (18 件)
引っ越してきたとき (12 件)
農作業 (10 件)
介護をしているとき・自分の介護が必要なとき (8 件)
長期不在時 (11 件)
商売上ご利用いただいている (3 件)
その他 (39 件)



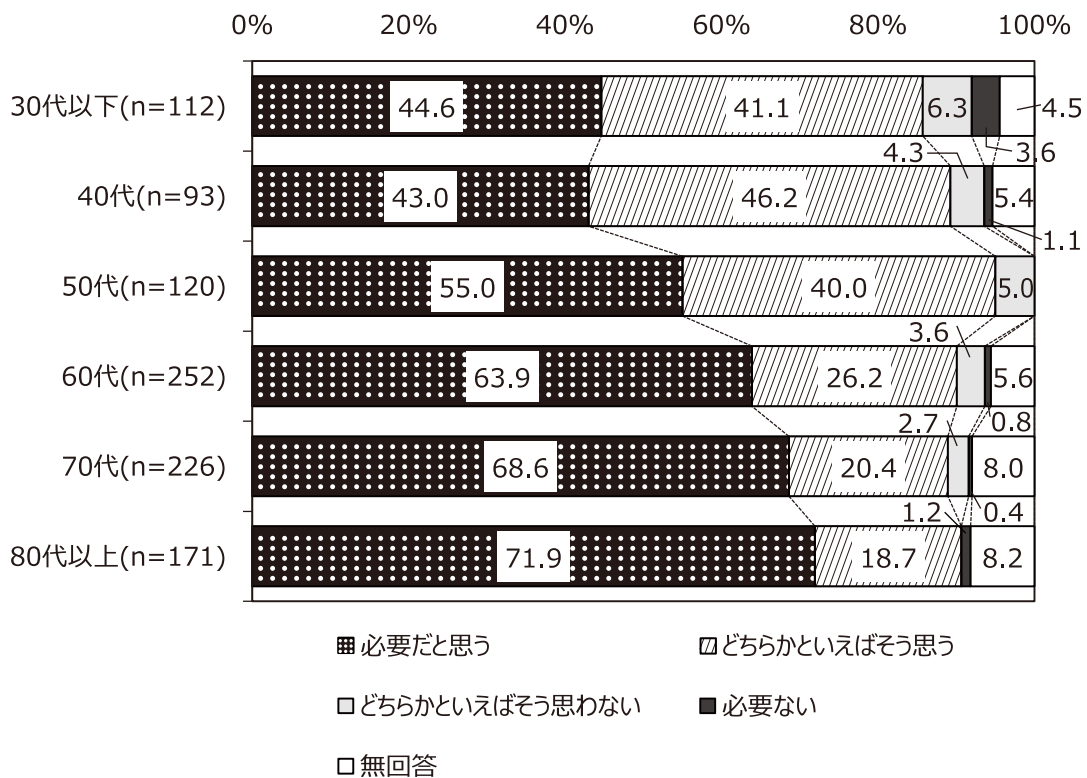
問12. あなたは、地域での助け合いの必要性をどう思いますか。(単数回答)

・「必要だと思う」が61.0%で最も多く、次いで「どちらかといえばそう思う」が28.7%、「どちらかといえばそう思わない」が3.4%などとなっている。



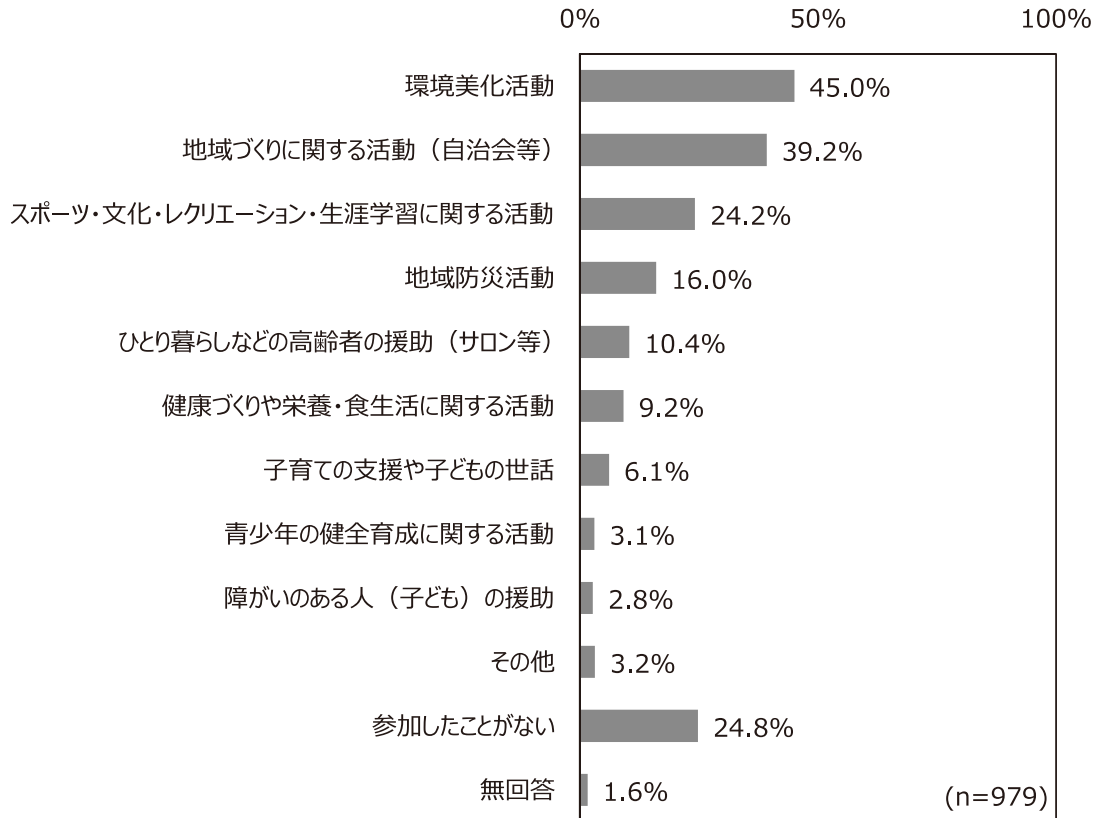
【クロス集計(年代別)】

・「地域での助け合いが必要」と思う割合は、年代が高くなるほど大きくなる。「どちらかといえばそう思う」を加えた割合は、どの年代でも概ね90%程度となる。



問13. あなたがこの2～3年の間に参加した地域活動は何ですか。(複数回答)

・「環境美化活動」が45.0%で最も多く、次いで「地域づくりに関する活動」が39.2%、「参加したことがない」が24.8%などとなっている。



その他
自治会・町内会での活動 (4件)
福祉委員の活動 (2件)
ゴミステーション当番
えびす会きずなグループ
社協のボランティア
老健の評議員
デイサービス
産直市場への出荷
サロン、温泉
花壇づくり
水害へのボランティア
同一趣味の会

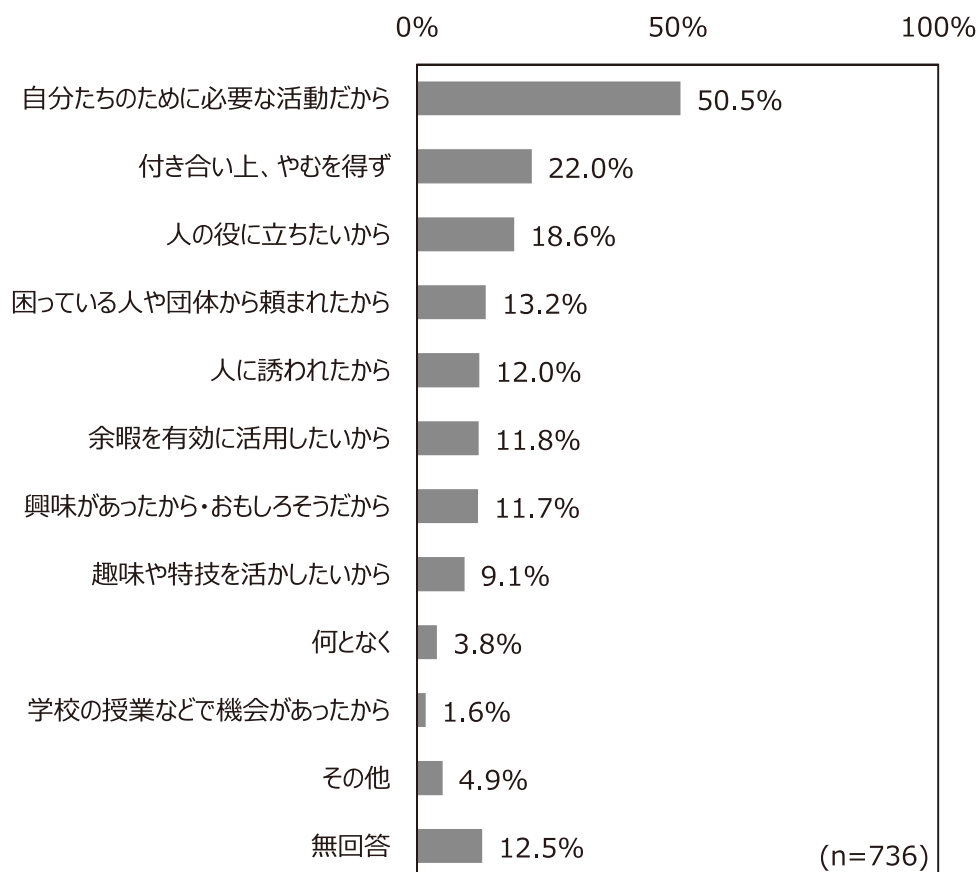
前回との比較

項目	ポイント差	H28 (n=812)	R2 (n=979)
環境美化活動	↘ -2.5	47.5	45.0
地域づくりに関する活動（自治会等）	↘ -2.4	41.6	39.2
スポーツ・文化・レクリエーション・生涯学習に関する活動	↓ -8.3	32.5	24.2
地域防災活動	↗ 1.9	14.2	16.0
ひとり暮らしなどの高齢者の援助（サロン等）	↘ -0.4	10.8	10.4
健康づくりや栄養・食生活に関する活動	↘ -0.8	10.0	9.2
子育ての支援や子どもの世話	↘ -0.3	6.4	6.1
青少年の健全育成に関する活動	↘ -0.5	3.6	3.1
障がいのある人（子ども）の援助	↗ 0.0	2.7	2.8
その他	↗ 0.9	2.2	3.2
参加したことがない	↗ 2.5	22.3	24.8
無回答	↘ -1.2	2.8	1.6

【問 13 において「10. 参加したことがない」以外を選んだ方のみ】

問14. あなたが地域活動に参加したきっかけは何ですか。(〇は3つまで)

・「自分たちのために必要な活動だから」が50.5%で最も多く、次いで「付き合い上、やむを得ず」が22.0%、「人の役に立ちたいから」が18.6%などとなっている。

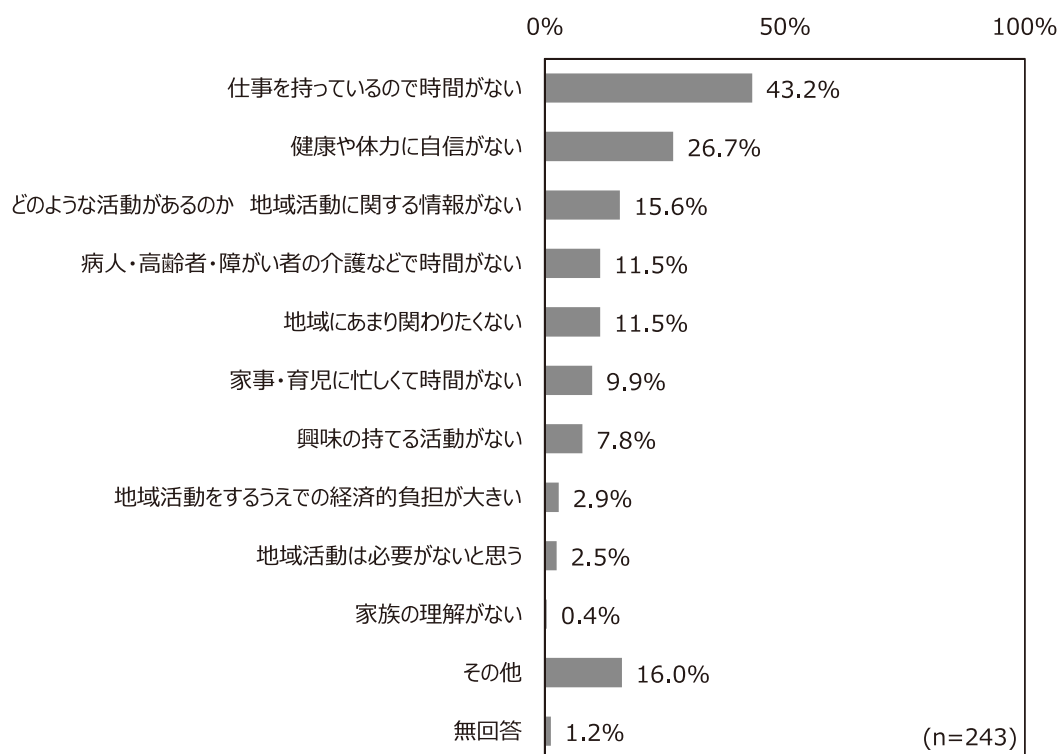


その他
強制参加・決まりごとだから (19 件)
地域活動を多くの人にもっと理解、協力してほしいから
世話人さんの献身的な活動に感謝、その集団にいる、誇らしい
生前の主人の父と親交のある方だから
高齢者が多く、家族と一緒にいない人や一人の時間が多い為
職場のボランティア活動
子どもが参加している地域活動
地域活性化
猿が出てそれに対する話合いをしたかったから

【問 13 において「10. 参加したことがない」を選んだ方のみ】

問15. あなたが地域活動に参加しない理由は何ですか。(複数回答)

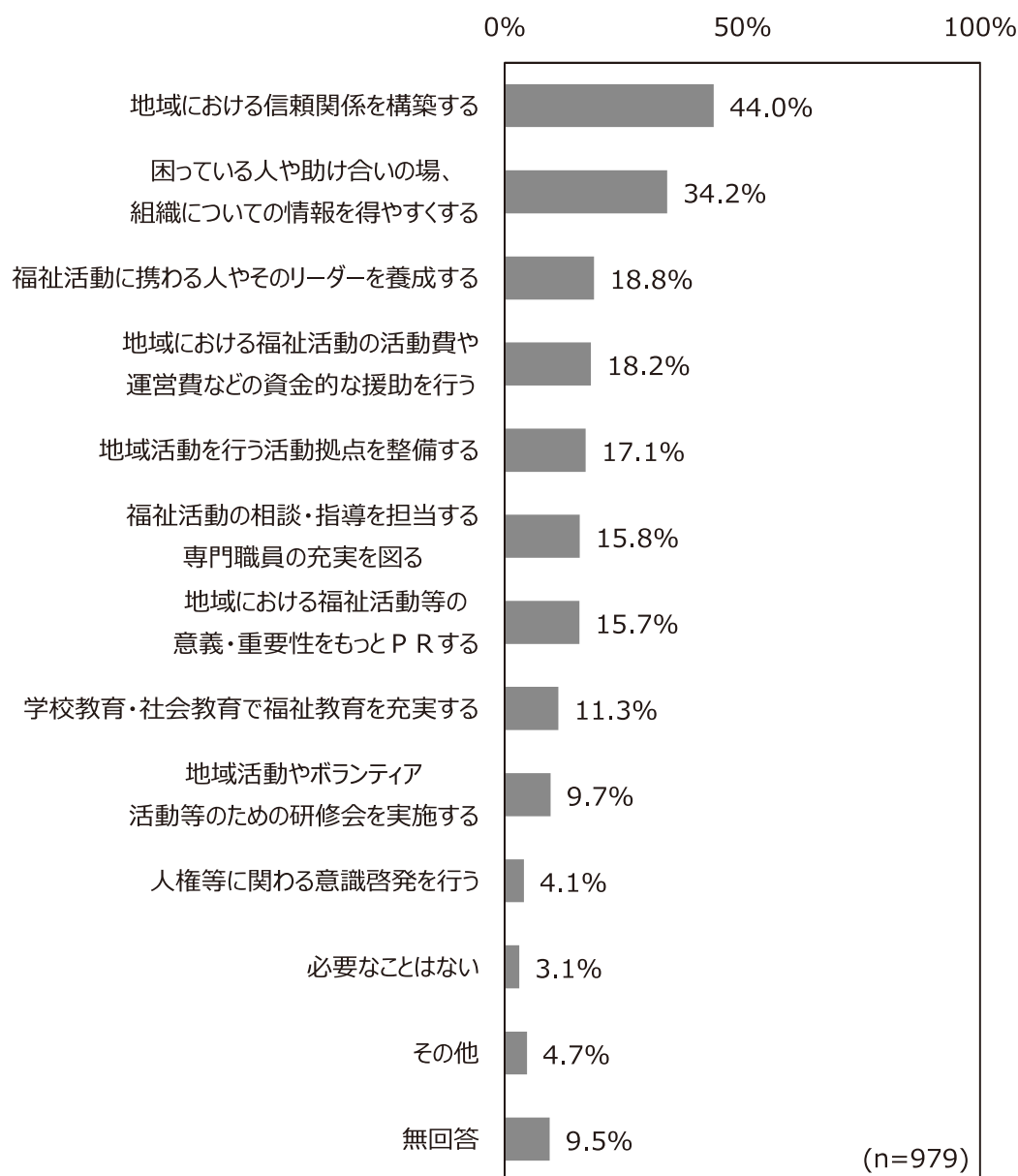
・「仕事を持っているので時間がない」が43.2%で最も多く、次いで「健康や体力に自信がない」が26.7%、「どのような活動があるのか地域活動に関する情報がない」が15.6%などとなっている。



その他
病気・身体が不自由だから (7 件)
家族が参加してくれるから (6 件)
最近引っ越してきた・帰省してきたから (6 件)
高齢だから (5 件)
忙しいから (4 件)
通う事ができないから (3 件)
地域活動が実施されていないから (2 件)
サルがいつ来るか分からないので、来たら食害されるから。
自宅を留守にすることがあまりできない為など
人と話すことが苦手。集団で過ごすことが苦手
若い人がいないので何も活動はない。近所は空家か高齢者か単身者が多く、あまり関係を持つのは好きではないのではと思う。
自治会に加入していないので参加の仕方が分からない

問16. あなたは、住民による地域活動を活発にするためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

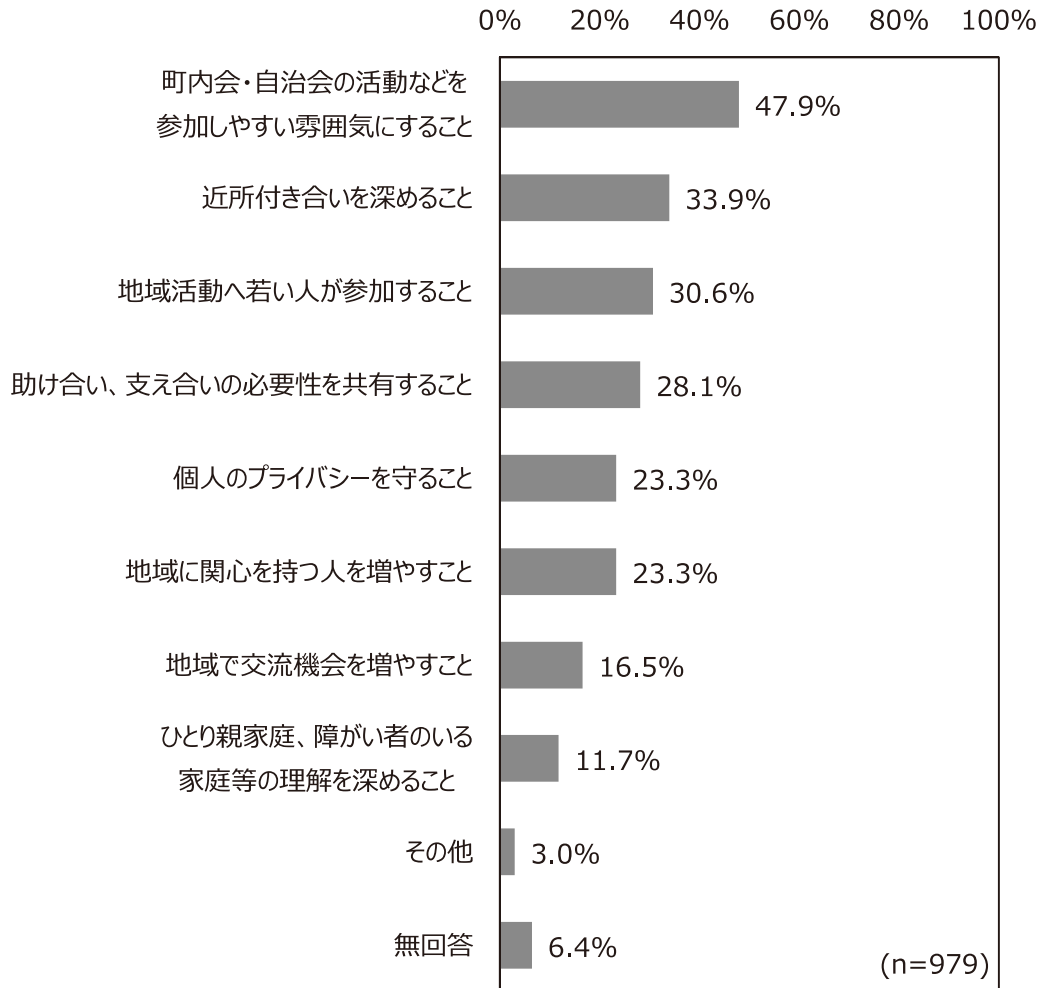
・「地域における信頼関係を構築する」が44.0%で最も多く、次いで「困っている人や助け合いの場、組織についての情報を得やすくする」が34.2%、「福祉活動に携わる人やリーダーを養成する」が18.8%などとなっている。



その他
人口を増やす (4件)
高齢のため何もできない (3件)
職場の理解を得る (2件)
その他 (18件)

問 17. あなたは、地域の人々がお互い力を合わせて、住みよい地域社会を実現していくうえで課題となることは何だとお考えですか。(〇は3つまで)

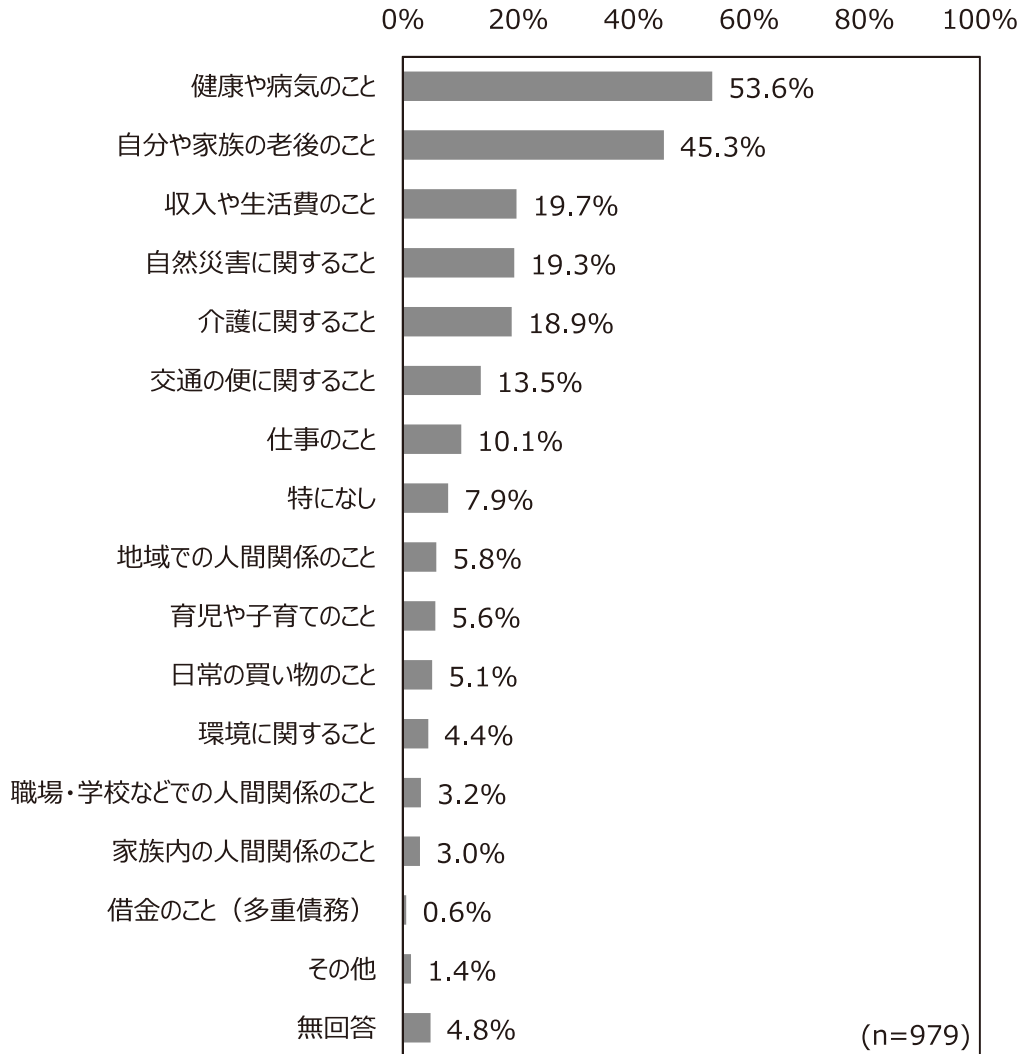
・「町内会・自治会の活動などを参加しやすい雰囲気にする事」が47.9%で最も多く、次いで「近所付き合いを深めること」が33.9%、「地域活動へ若い人が参加すること」が30.6%などとなっている。



その他
少子高齢化 (6 件)
他人に押し付けない (3 件)
僻地の住人も高齢化が進み免許証返納後、病院、買い物すぐの日常が不便です。福祉タクシーを安心して利用できると良い。
高齢の為迷惑に思われるだけ
自然な郷土愛を育める環境づくり
市役所職員の意識改革
その他 (6 件)

問18. あなたが日頃抱えている悩みや不安はどのようなことですか。(〇は3つまで)

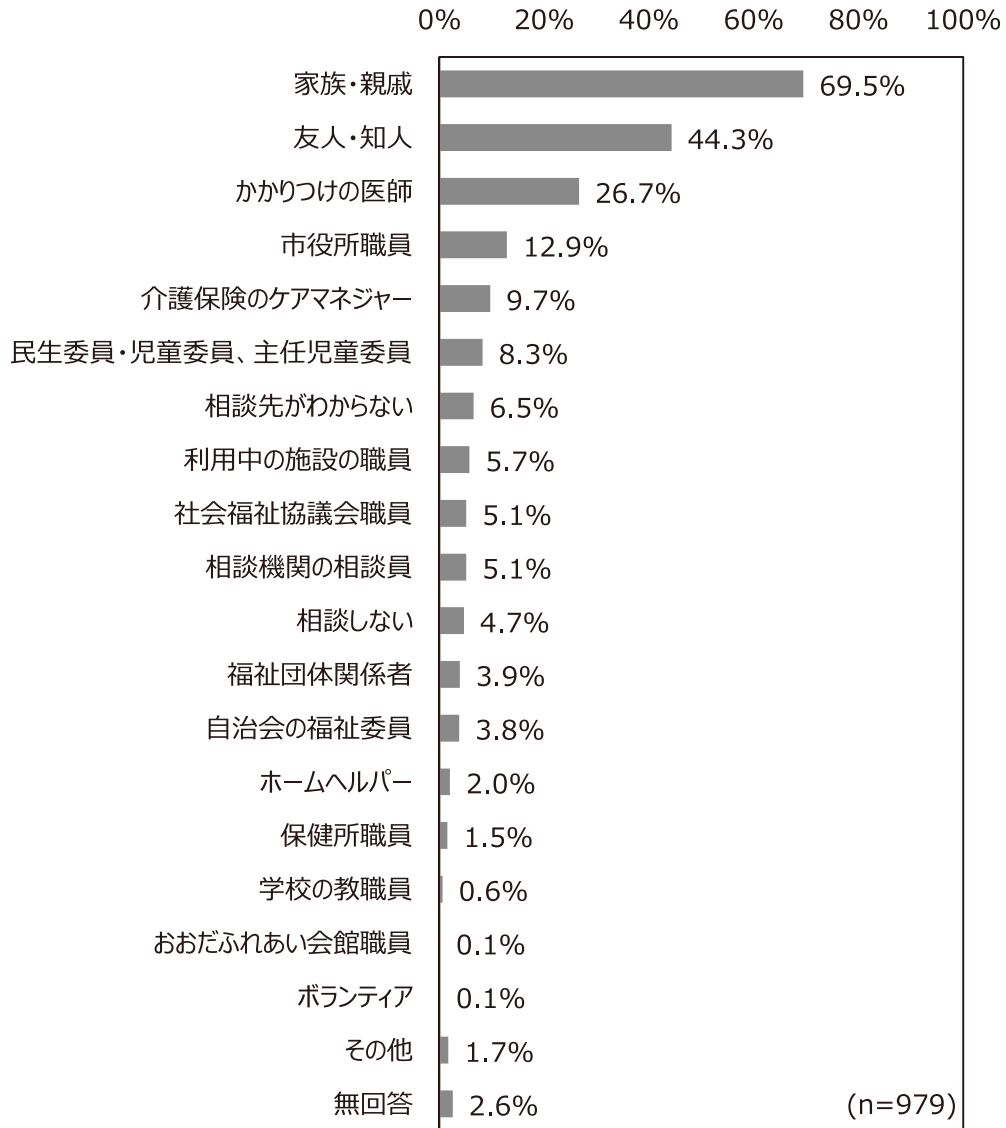
・「健康や病気のこと」が53.6%で最も多く、次いで「自分や家族の老後のこと」が45.3%、「収入や生活費のこと」が19.7%などとなっている。



その他
新型コロナウイルスのこと (3件)
少子高齢化に関すること (3件)
鳥獣被害のこと (3件)
メディアに洗脳された人間が大勢いること

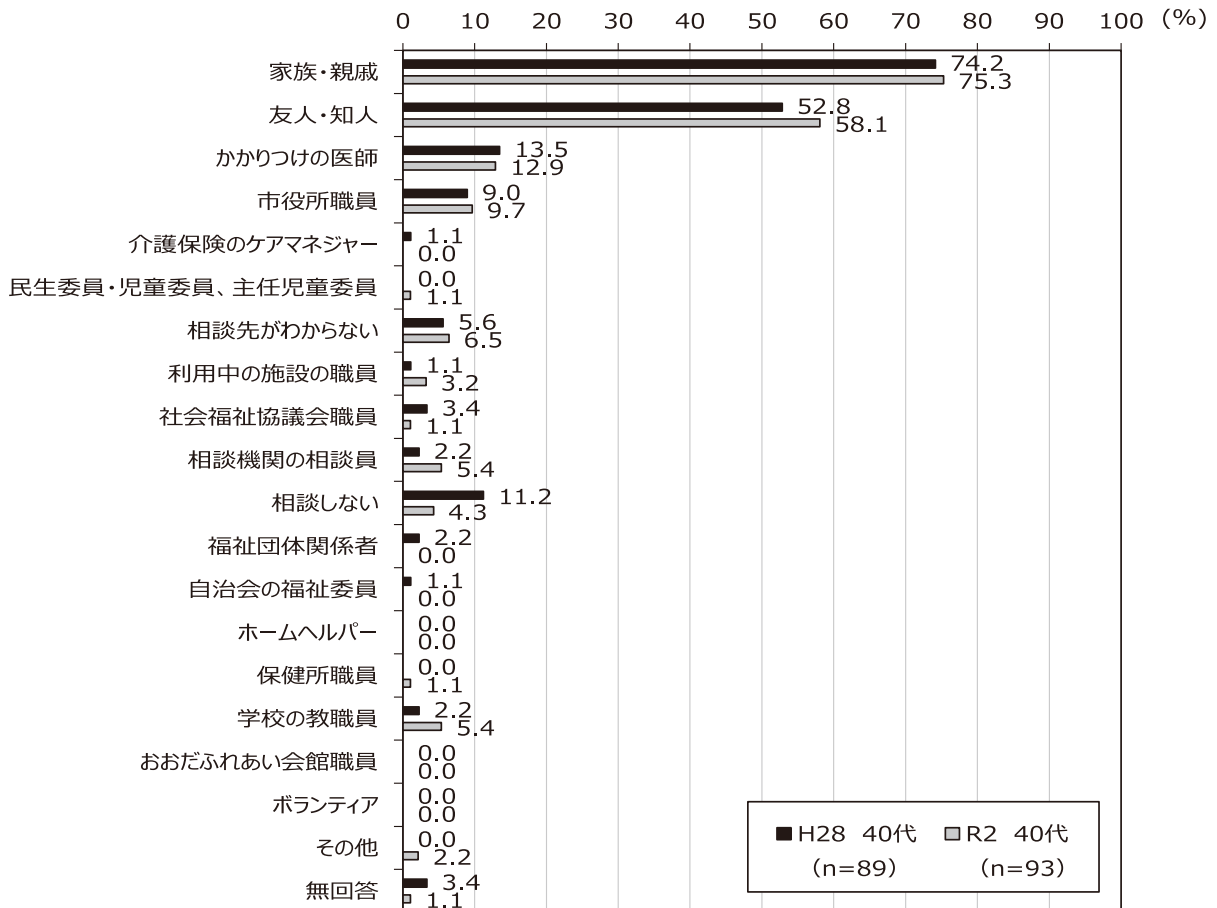
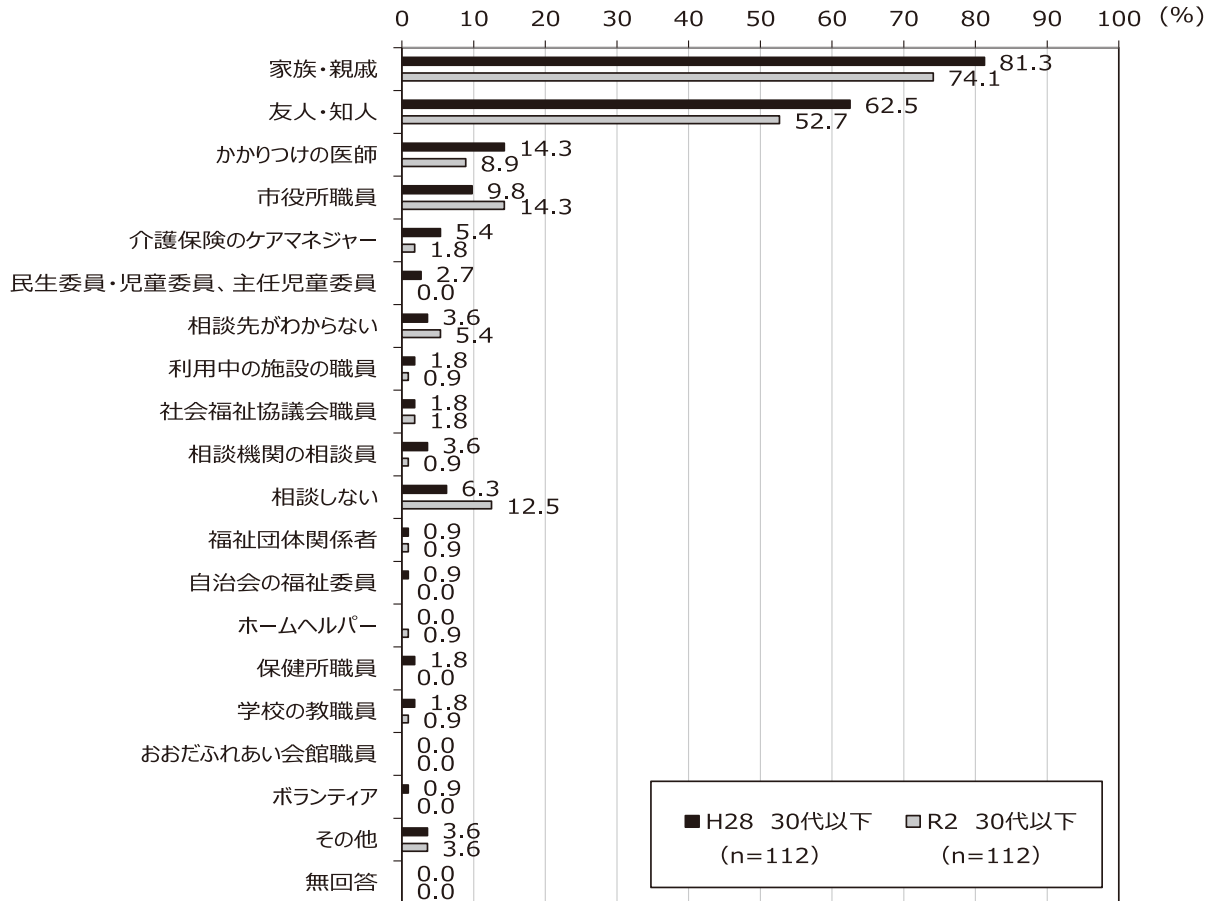
問19. あなたは、日常生活での不安や福祉サービスの利用などを誰に相談しますか。(複数回答)

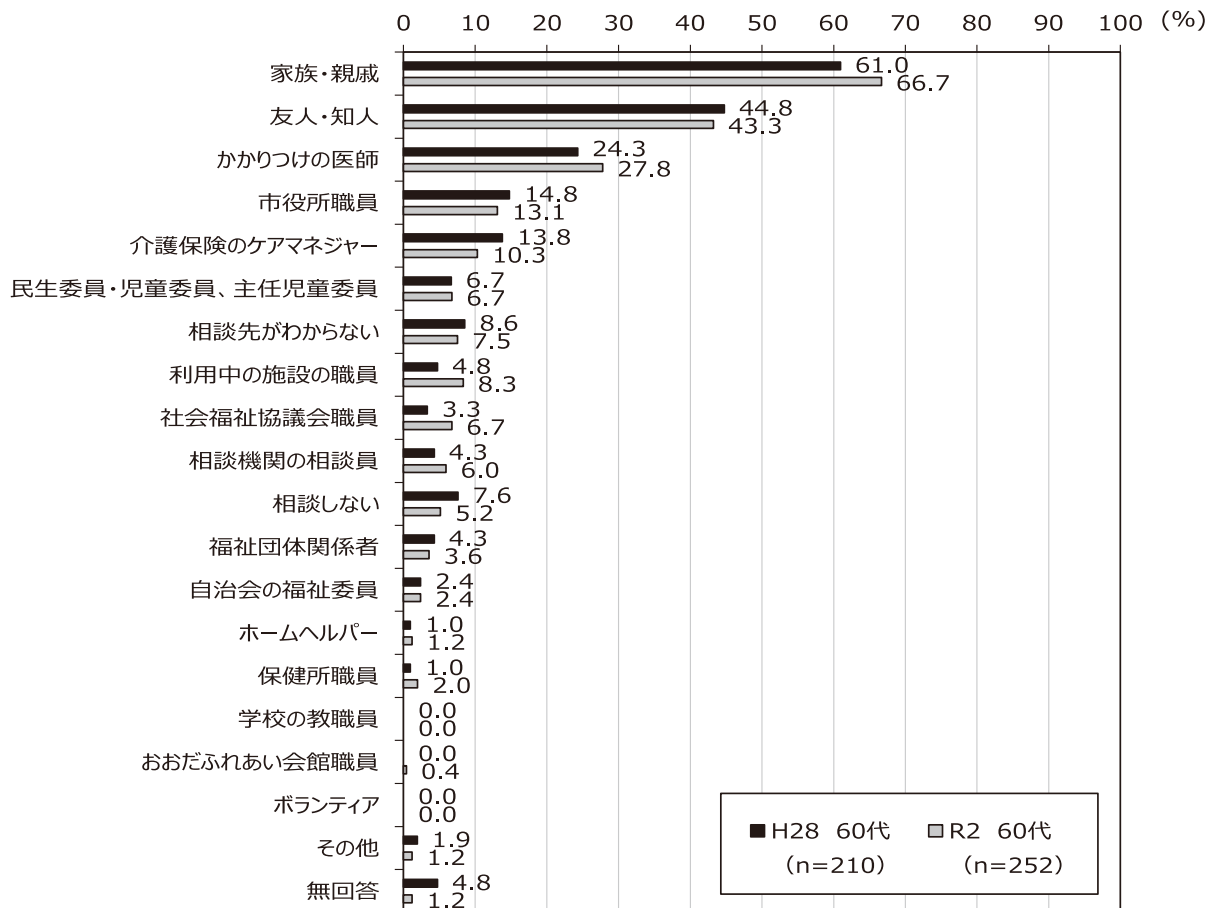
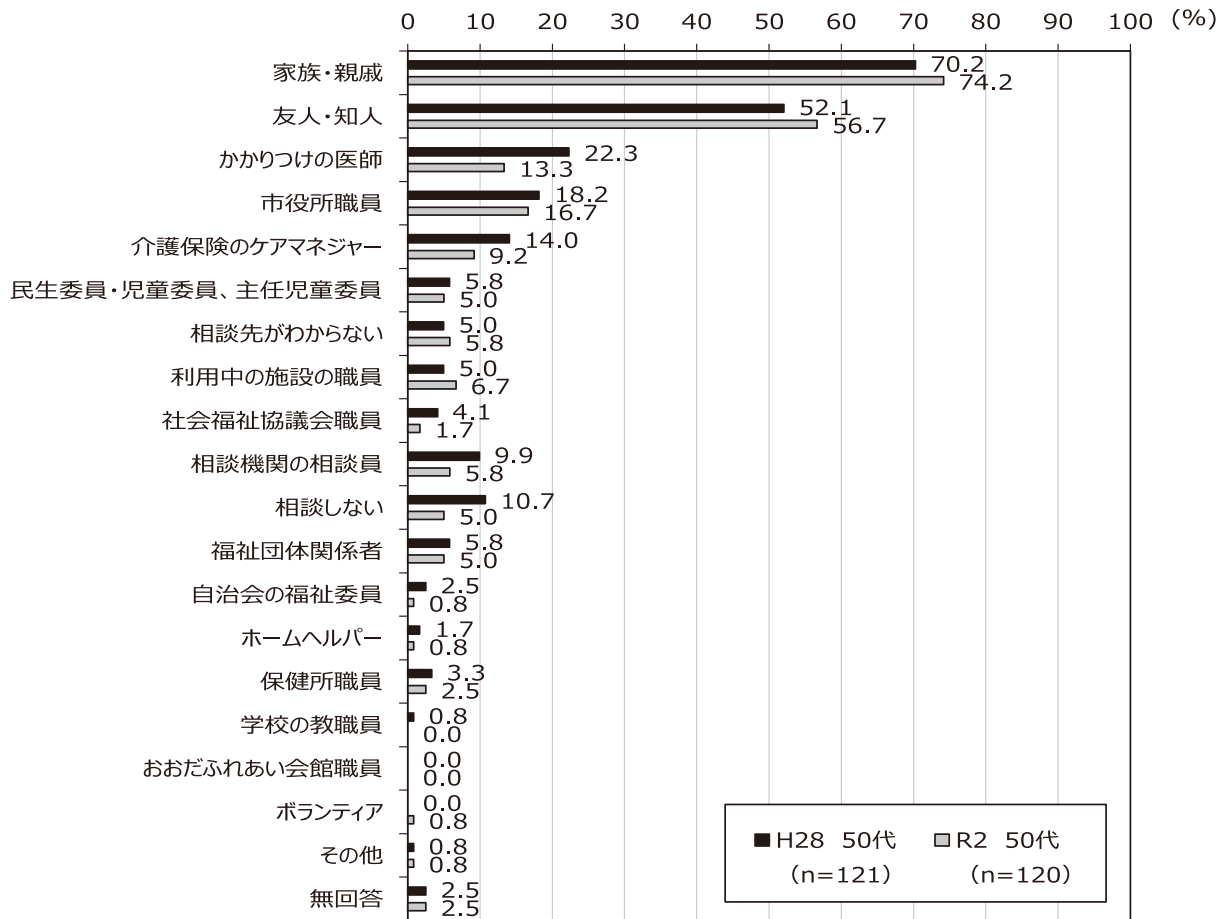
・「家族・親戚」が69.5%で最も多く、次いで「友人・知人」が44.3%、「かかりつけの医師」が26.7%などとなっている。

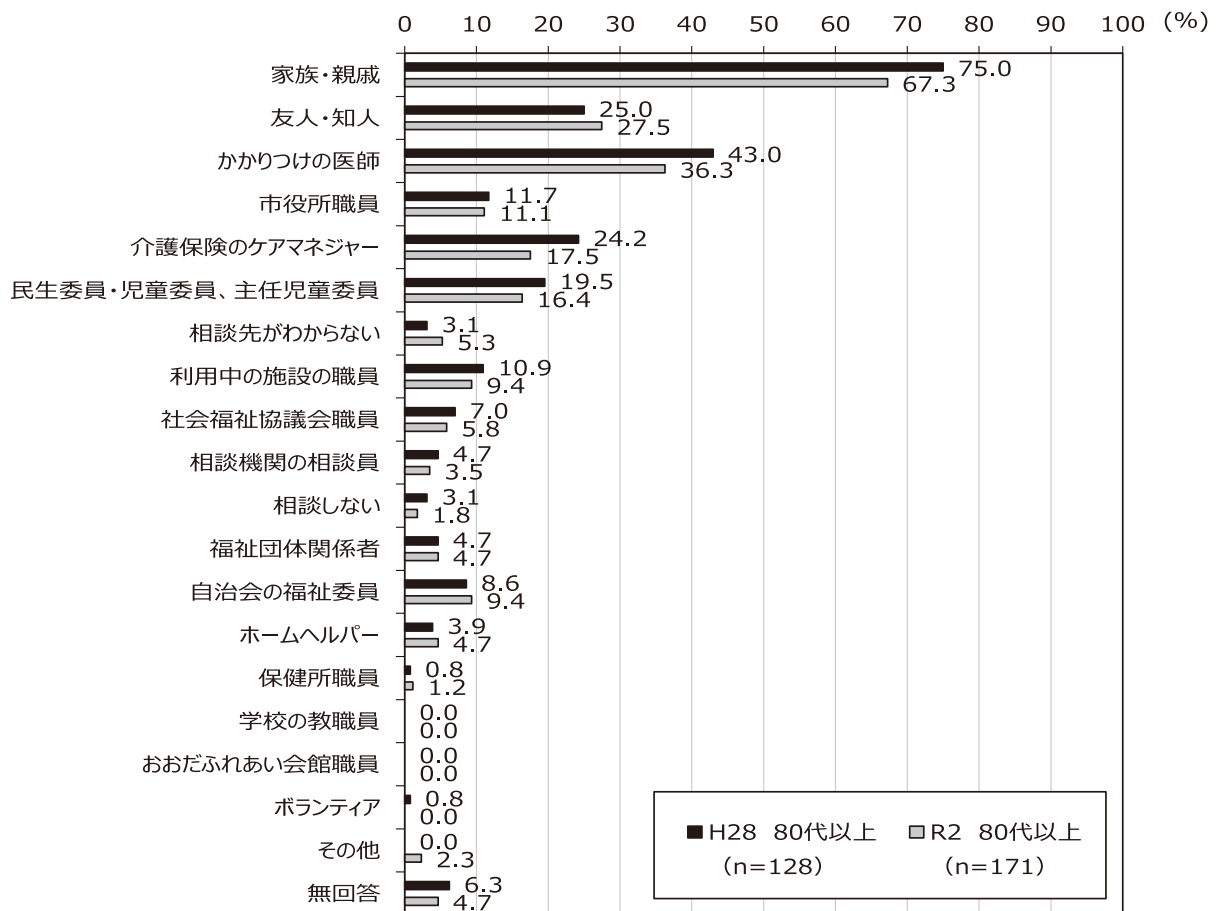
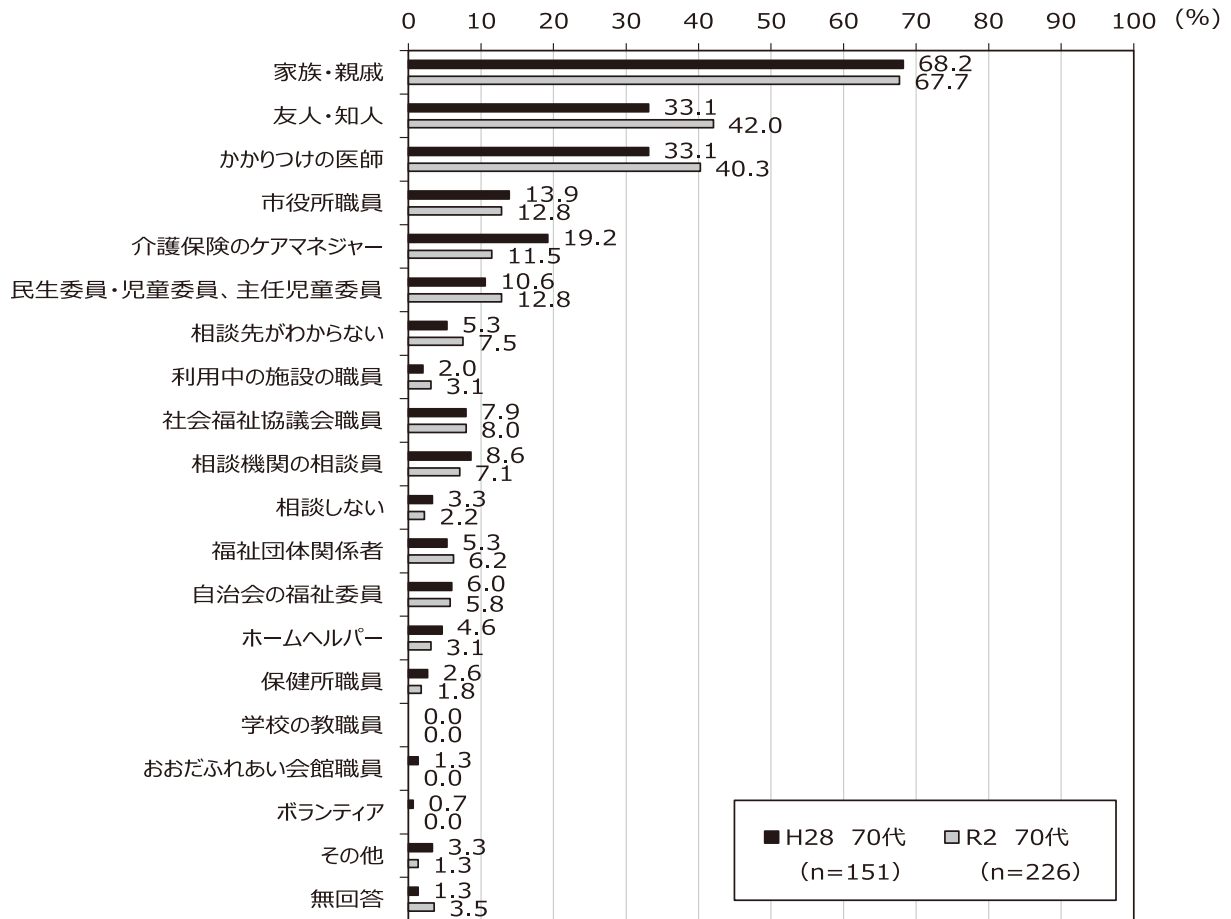


その他
職場関係 (4 件)
インターネットで調べる (2 件)
大田市長
地域包括センター

【クロス集計(年代別)】







R2 における全体結果とクロス集計結果の比較

次ページの表にまとめています。数字は、各年代の相談相手の回答割合を示し、着色は各世代における1位から5位までの順位を示しています。

相談相手として「家族・親戚」が1位なのは全世代で変わりませんが、年代が高くなるにしたがって低くなります。「友人・知人」が2位なのは70代までで80代は3位になります。ここでも年代が高くなるにしたがって低くなっています。80代は「かかりつけの医師」が2位になっています。「かかりつけの医師」は40代～70代は3位ですが、30代以下は6位と低い順位になっています。「市役所職員」が30代では3位になり、40代～70代は4位になっています。

「介護保険のケアマネジャー」は、80代では4位、50代～70代は5位以上となっていますが、40代以下の世代では低く下位となっています。

年代によって、相談相手の必要性は変化しています。

	R2 30代以下 (n=112)	R2 40代 (n=93)	R2 50代 (n=120)	R2 60代 (n=252)	R2 70代 (n=226)	R2 80代以上 (n=171)
家族・親戚	74.1	75.3	74.2	66.7	67.7	67.3
友人・知人	52.7	58.1	56.7	43.3	42.0	27.5
かかりつけの医師	8.9	12.9	13.3	27.8	40.3	36.3
市役所職員	14.3	9.7	16.7	13.1	12.8	11.1
介護保険のケアマネジャー	1.8	0.0	9.2	10.3	11.5	17.5
民生委員・児童委員、主任児童委員	0.0	1.1	5.0	6.7	12.8	16.4
相談先がわからない	5.4	6.5	5.8	7.5	7.5	5.3
利用中の施設の職員	0.9	3.2	6.7	8.3	3.1	9.4
社会福祉協議会職員	1.8	1.1	1.7	6.7	8.0	5.8
相談機関の相談員	0.9	5.4	5.8	6.0	7.1	3.5
相談しない	12.5	4.3	5.0	5.2	2.2	1.8
福祉団体関係者	0.9	0.0	5.0	3.6	6.2	4.7
自治会の福祉委員	0.0	0.0	0.8	2.4	5.8	9.4
ホームヘルパー	0.9	0.0	0.8	1.2	3.1	4.7
保健所職員	0.0	1.1	2.5	2.0	1.8	1.2
学校の教職員	0.9	5.4	0.0	0.0	0.0	0.0
おおだふれあい会館職員	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
ボランティア	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
その他	3.6	2.2	0.8	1.2	1.3	2.3
無回答	0.0	1.1	2.5	1.2	3.5	4.7

凡例	
1位	74.1
2位	52.7
3位	8.9
4位	14.3
5位	1.8

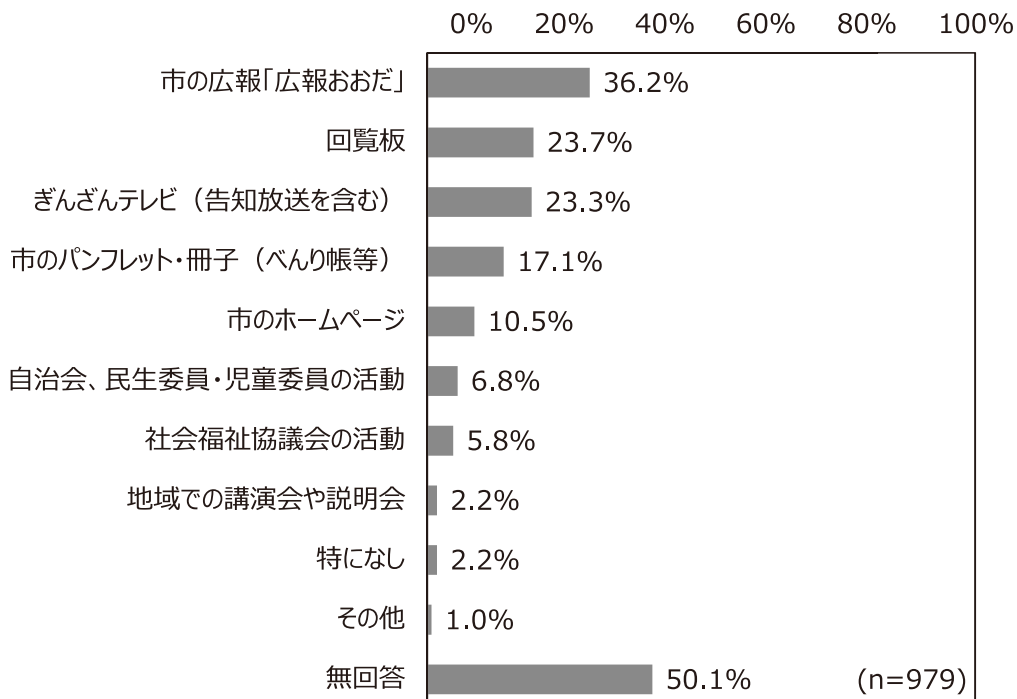
問20. 相談しやすい環境（相談相手・場所）について、ご意見があればご記入ください。（自由回答）

自由回答	
【相談相手】	【相談場所】
個人情報の保護（16件）	身近な施設で個室（15件）
電話・メール・オンライン対応可（8件）	自宅で聞いてほしい（13件）
知識が豊富で信頼できる（7件）	集まってお茶ができる場所
県・市職員への要望（6件）	
気軽に話ができる人柄・雰囲気（5件）	
その他（11件）	
【その他】	
相談場所・相手についての情報発信をしてほしい（15件）	
まちづくりセンターを充実させてほしい（2件）	
相談日を設定してほしい（2件）	
その他（6件）	

問21. あなたは、大田市が提供する福祉サービスの情報などを得るために役立った媒体や役立っている媒体、また情報の発信を充実してほしい媒体は何ですか。（複数回答）

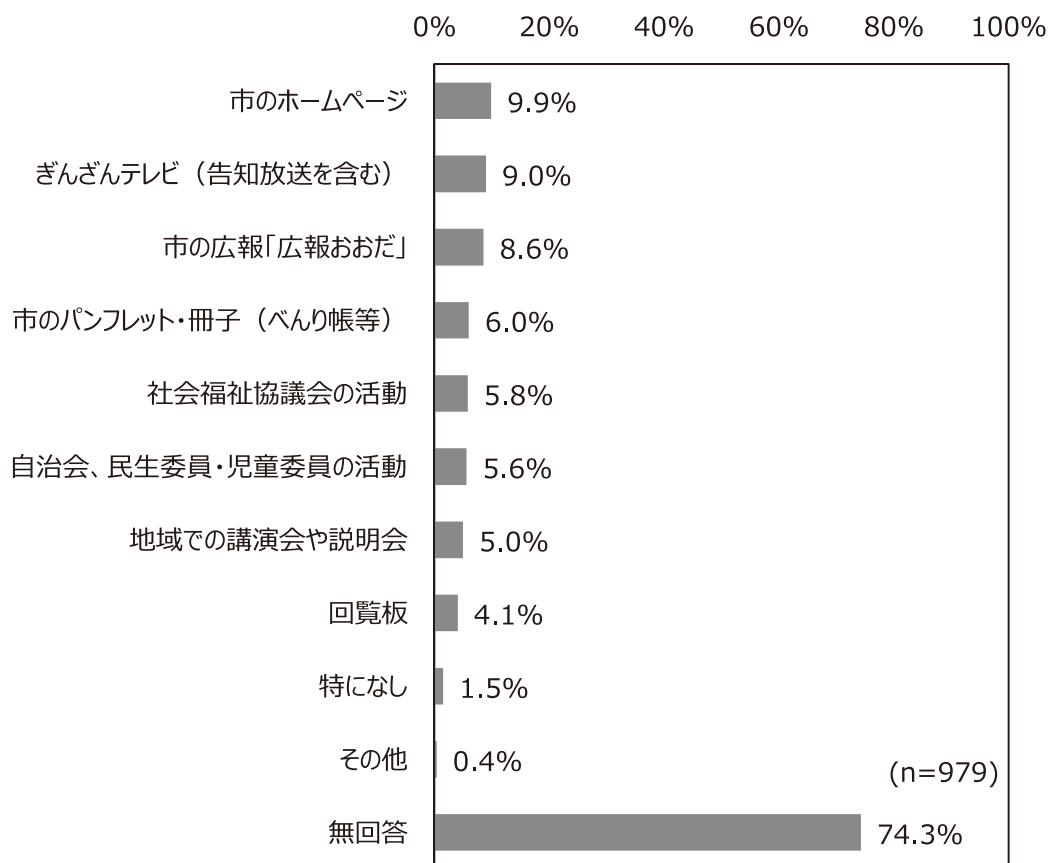
【役立った・役立っている媒体】

・「市の広報『広報おおだ』」が36.2%で最も多く、次いで「回覧板」が23.7%、「ぎんざんテレビ（告知放送を含む）」が23.3%などとなっている。



【充実してほしい媒体】

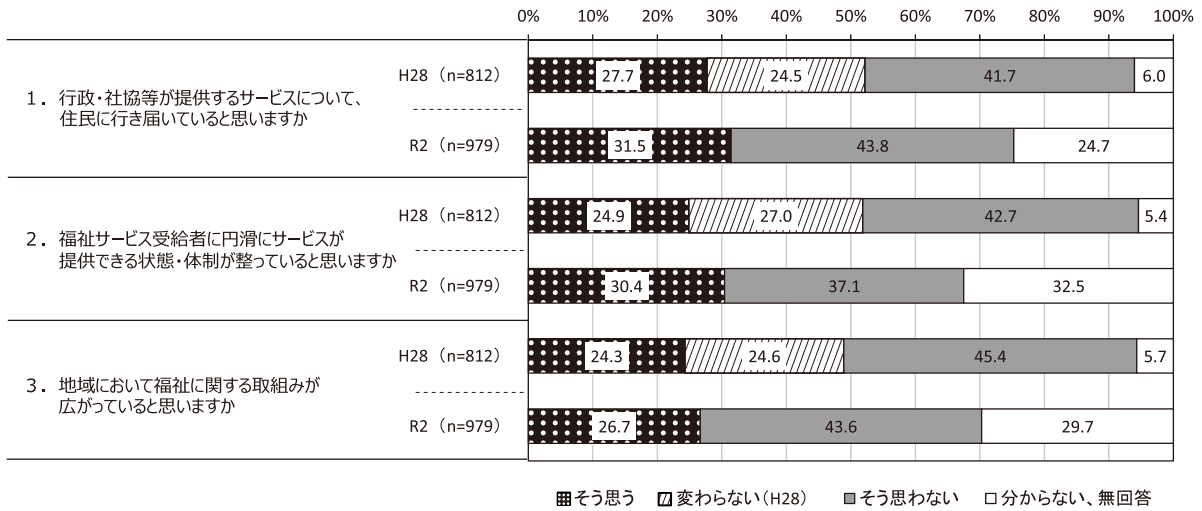
・「市のホームページ」が9.9%で最も多く、次いで「きんざんテレビ（告知放送を含む）」が9.0%、「市の広報『広報おおだ』」が8.6%などとなっている。



その他
いかに興味を持つか、見える化、情報化、活発化が必要だと思う。
スマホアプリ
山間部のインターネット回線
SNS、FB
新聞
必要に応じて市役所窓口や施設のケアマネージャー
職場
病院に入院した時、退院する時
担当ケアマネージャーからの情報
行政、弁護士相談
かかりつけ医

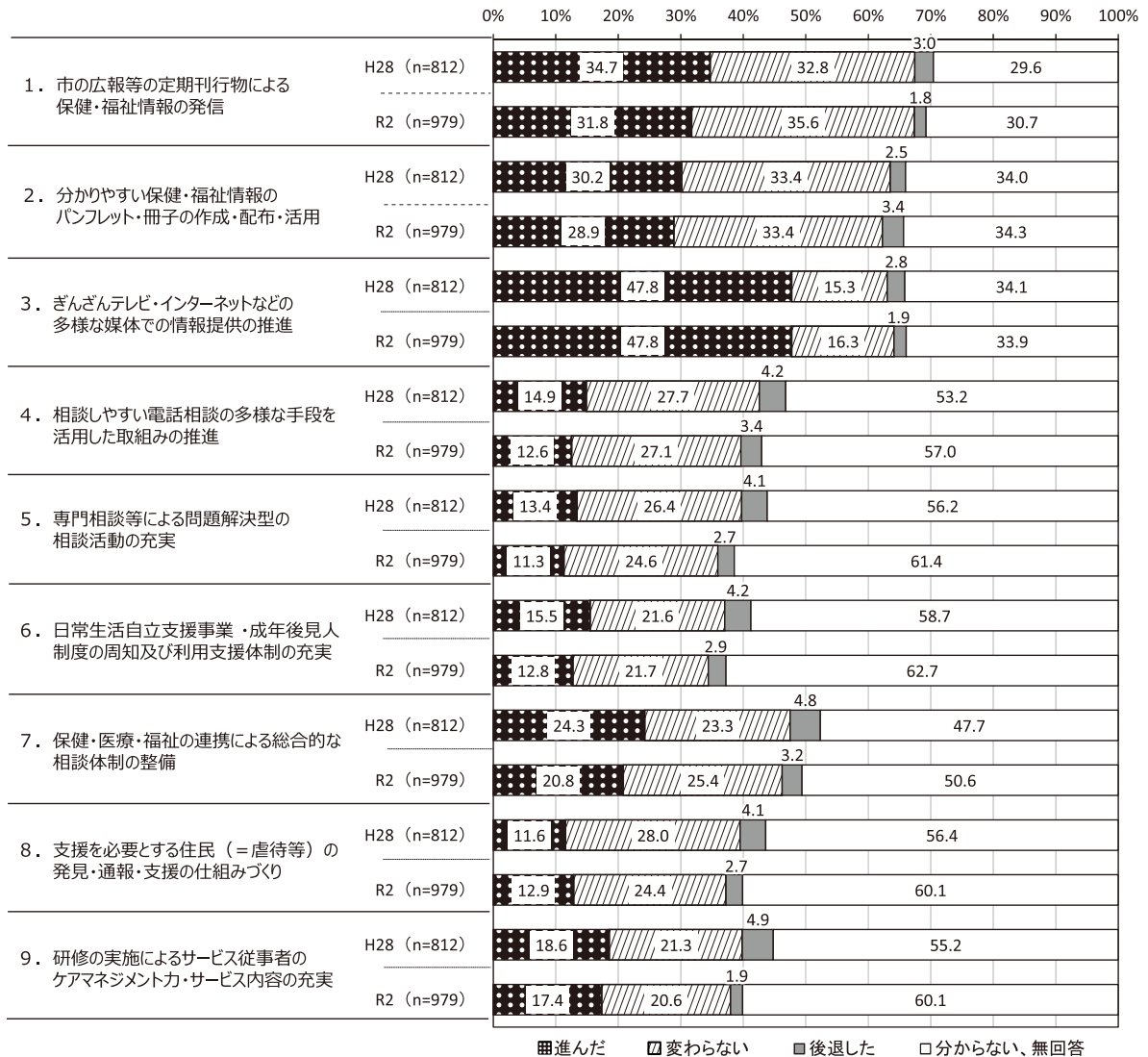
問22. あなたは、以下の項目に対してどう思いますか。(単数回答)

・項目1、2については、「そう思う」が約30%となっている。項目3は「そう思う」の割合がやや低く26.7%となっている。H28と比較すると、すべての項目でR2の方が「そう思う」割合が高くなっている。

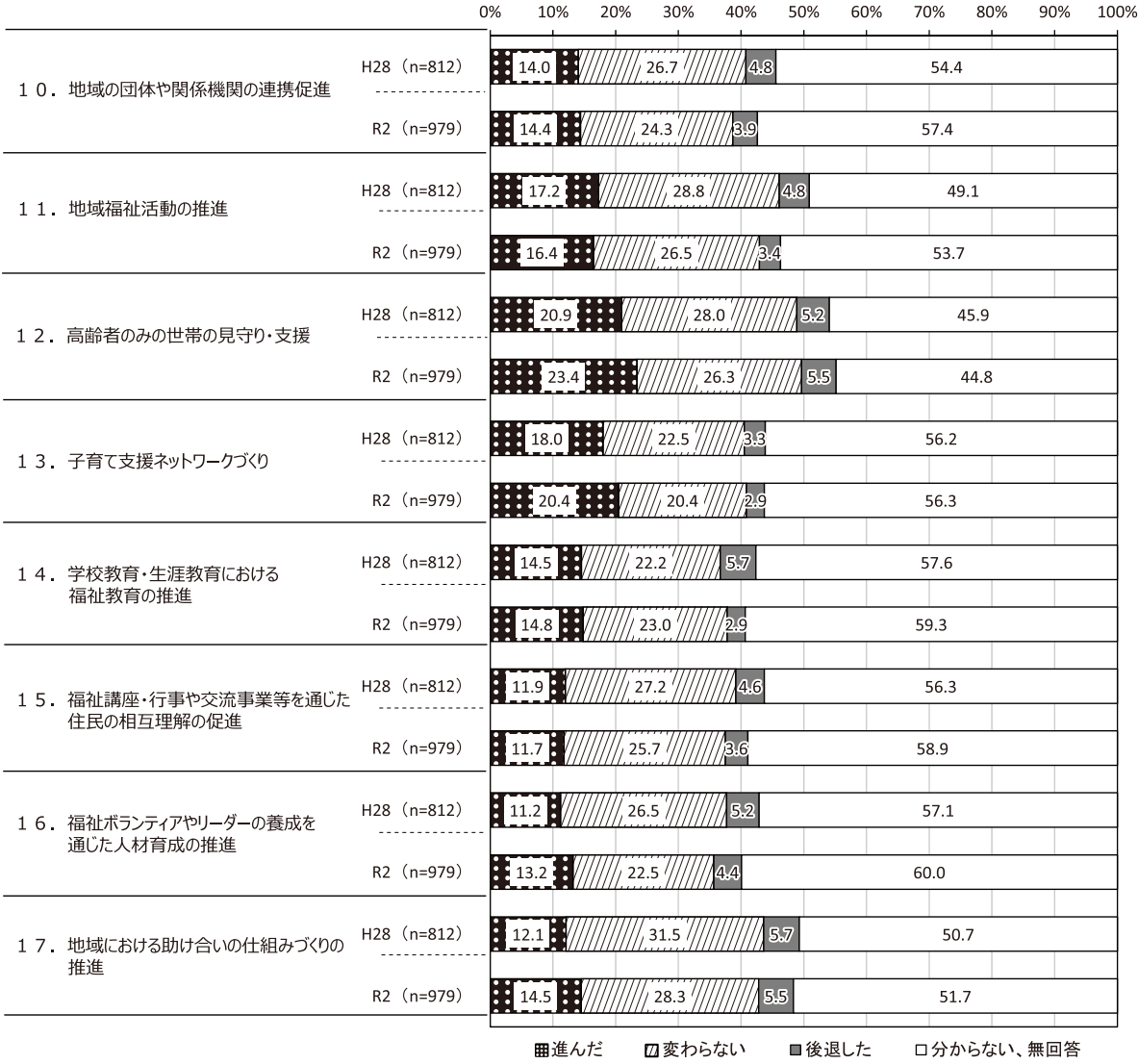


問23. あなたは、以下の項目が以前（5～10年くらい前）と比較して、どの程度進んだと思いますか。（単数回答）

・ H28とR2を比較しているが、回答に大きな変化はない。「7：総合的な相談体制の整備」がR2の方がやや低くなっている。
 ・ 1.～3.の情報提供の項目が「進んだ」と評価する割合が高くなっている。その中でも「3. 様々な媒体での情報提供」の評価が47.8%と高くなっている。
 ・ 4.～9.の相談体制や支援・サービスの項目では、「進んだ」とする評価は20%以下となっている。

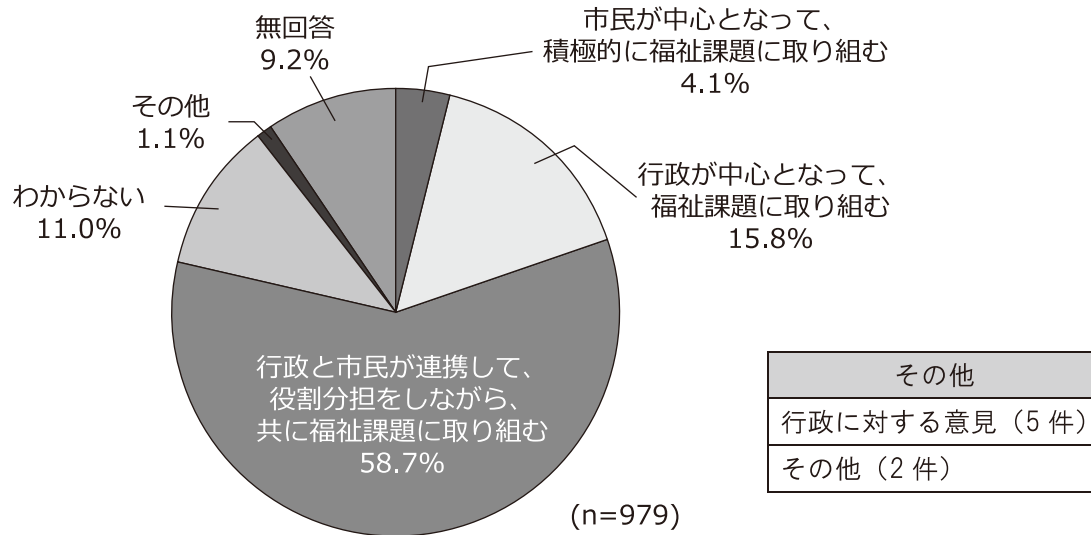


・ H28とR2を比較している。「進んだ」が高くなっている項目は、「12：高齢者のみ世帯の見守り・支援」が2.5%、「13. 子育てネットワークづくり」が2.4%となっている。
 ・ 12. 13. の項目が「進んだ」と評価する割合が20%以上になっているが、その他は10%台となっている。



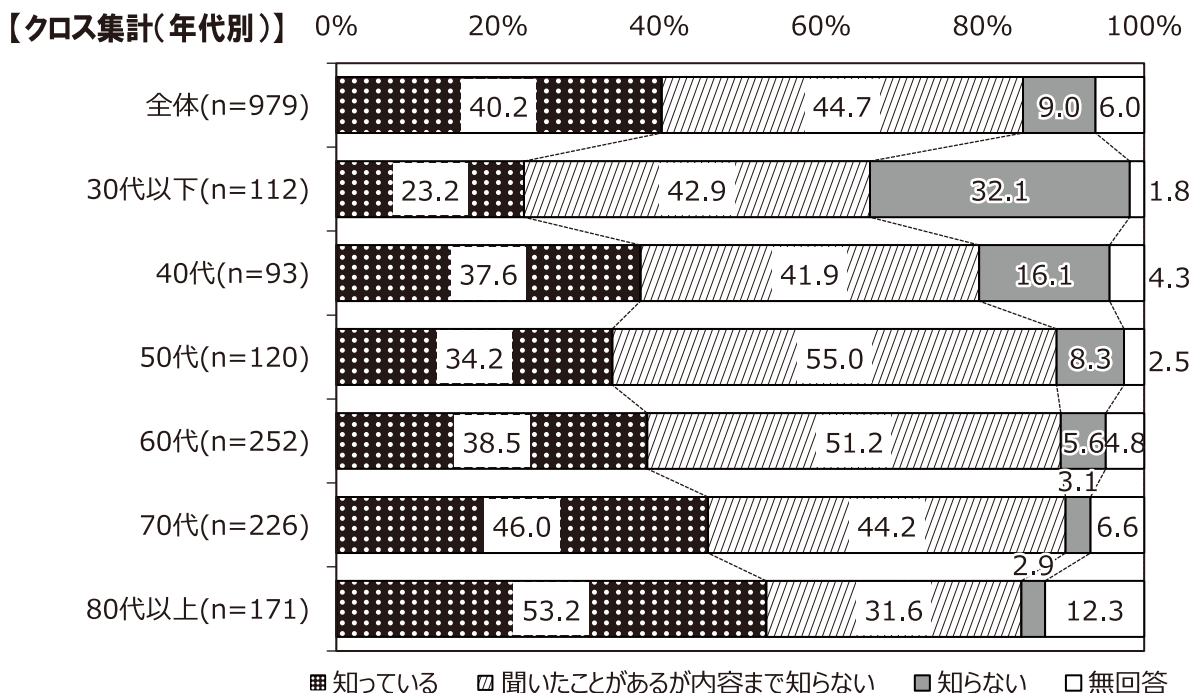
問24. あなたは、地域福祉を充実させていく上で、行政と地域住民とはどのような関係であるべきだと思いますか。(単数回答)

・「行政と市民が連携して、役割分担をしながら、共に福祉課題に取り組む」が58.7%で最も多く、次いで「行政が中心となって、福祉課題に取り組む」が15.8%、「わからない」が11.0%などとなっている。



問25. あなたは、民生委員・児童委員、主任児童委員の制度や活動を知っていますか。(単数回答)

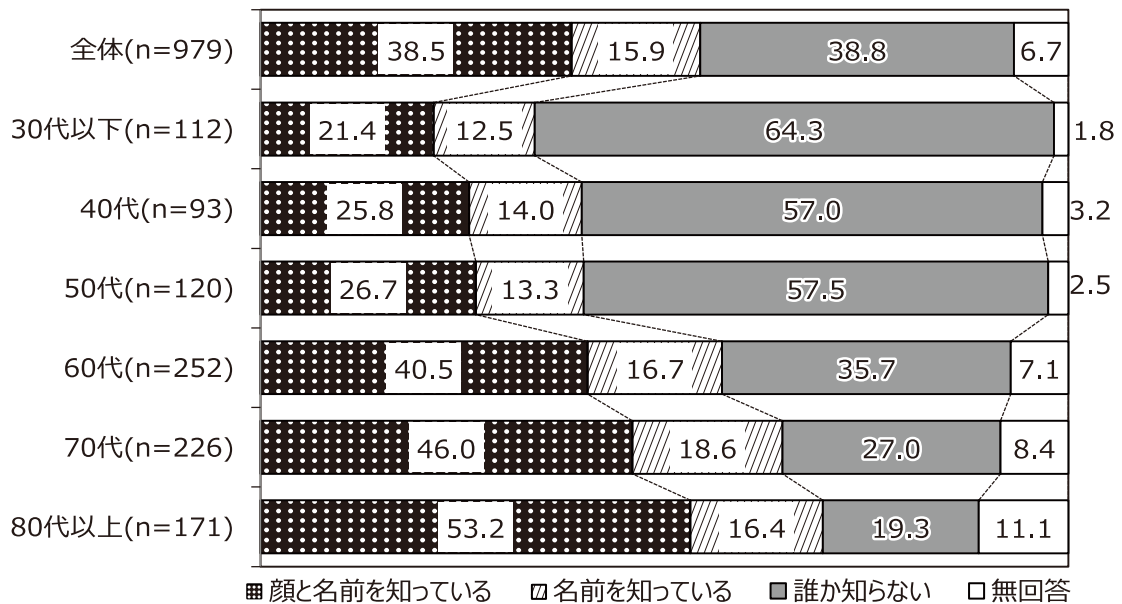
・全体では、「聞いたことがあるが内容まで知らない」が44.7%で最も多く、次いで「知っている」が40.2%、「知らない」が9.0%となっている。
 ・年代別にみると、「知らない」の割合が若い年代は大きく(30代以下:32.1%)、年代が高くなるにしたがって小さく(80代:2.9%)になっている。逆に、「知っている」の割合は、年代が高くなるにしたがって大きく(80代:53.2%)になっている。



問26. あなたの地域を担当されている民生委員・児童委員、主任児童委員は誰か知っていますか。(単数回答)

- ・全体では「誰か知らない」が38.8%で最も多く、次いで「顔と名前を知っている」が38.5%、「名前を知っている」が15.9%となっている。
- ・年代別では、回答割合が大きく変化している。「誰か知らない」の割合が若い年代では大きく(30代以下:64.3%)、年代が高くなるにしたがって小さく(80代:19.3%)となっている。80代以上では、「顔と名前を知っている」割合が53.2%と大きくなっている。

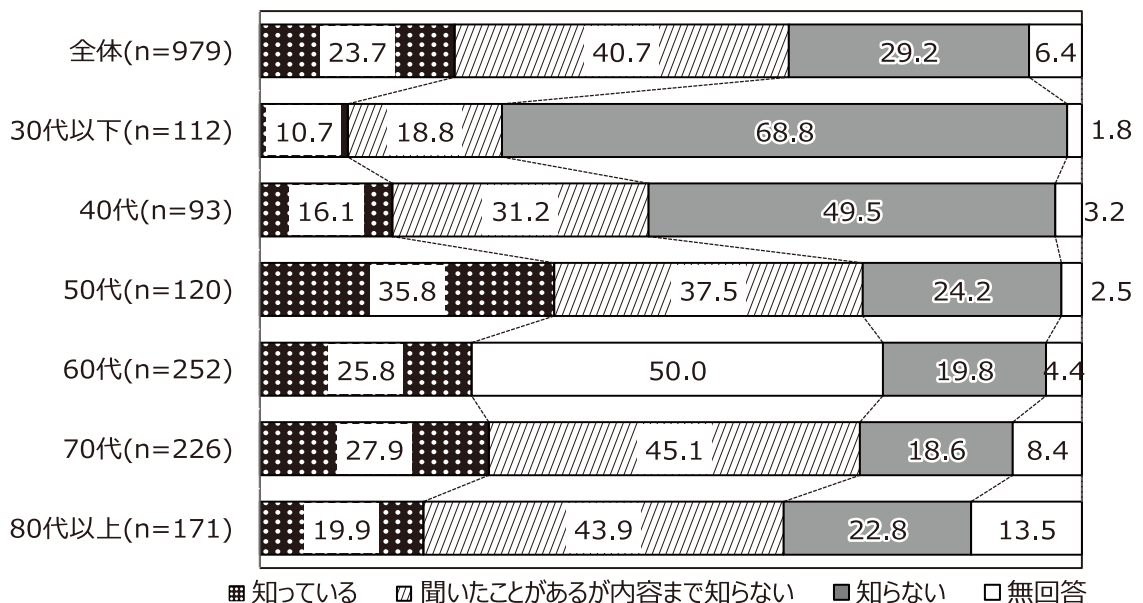
【クロス集計(年代別)】 0% 20% 40% 60% 80% 100%



問27. あなたは、保護司の制度や活動を知っていますか。(単数回答)

- ・全体では、「聞いたことがあるが内容まで知らない」が40.7%で最も多く、次いで「知らない」が29.2%、「知っている」が23.7%となっている。
- ・「知っている」+「聞いたことがある」は、50代以上は64~75%となっている。逆に、「知らない」は30代以下では68.8%と高くなっている。

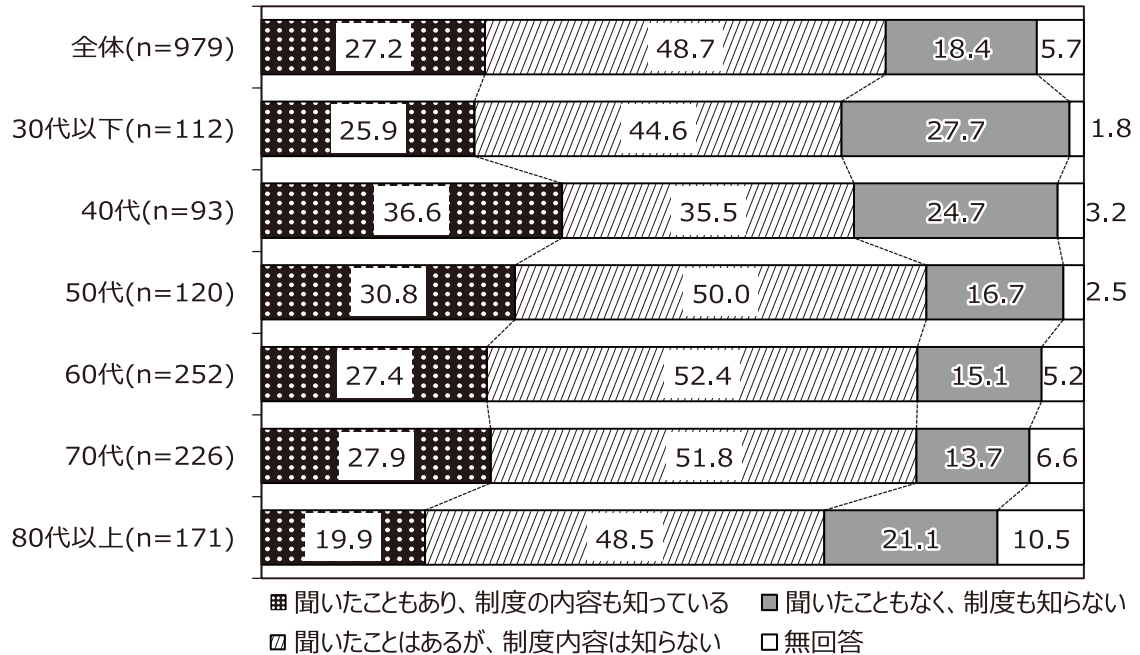
【クロス集計(年代別)】 0% 20% 40% 60% 80% 100%



問28. あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。(単数回答)

- ・全体では、「聞いたことはあるが、制度内容は知らない」が48.7%で最も多く、次いで「聞いたこともあり、制度の内容も知っている」が27.2%、「聞いたこともなく、制度も知らない」が18.4%となっている。
- ・「聞いたことがある」は、全世代大きな差がなく75%程度となっている。
- ・「知らない」は、40代以下で約25%、50～70代で約15%。80代で21%となっている。

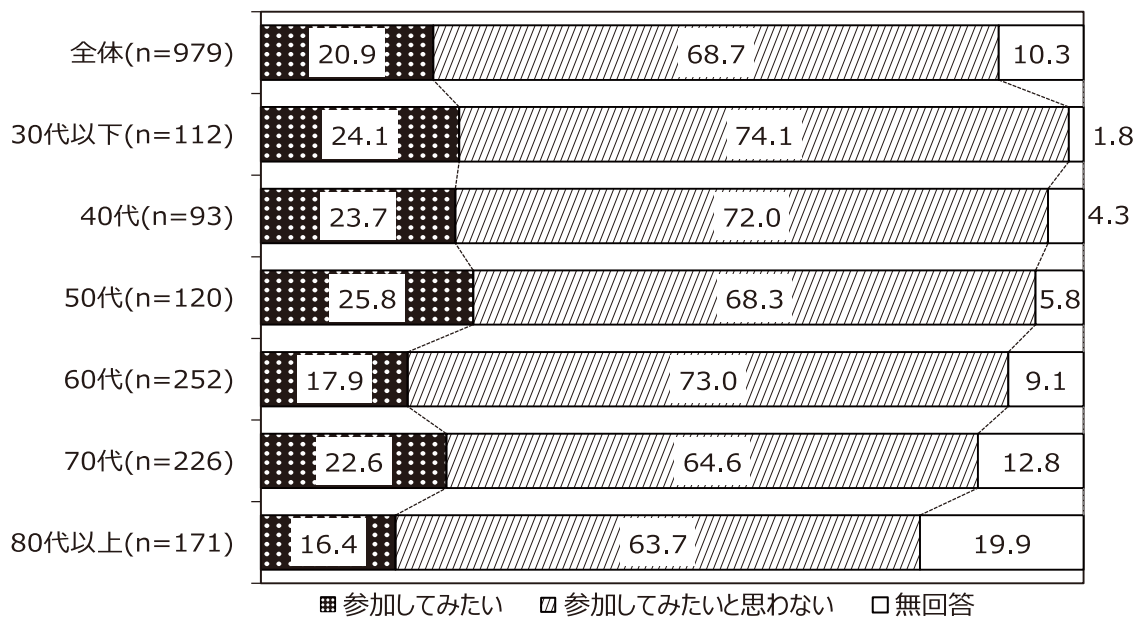
【クロス集計(年代別)】 0% 20% 40% 60% 80% 100%



問29. 成年後見制度について学ぶ機会があれば参加してみたいですか。(単数回答)

- ・全体では「参加してみたいと思わない」が半数以上を占めた。
- ※2割以上の方が「参加してみたい」と回答
- ・「参加してみたいと思わない」は、年代別に見ても65～75%となっている。

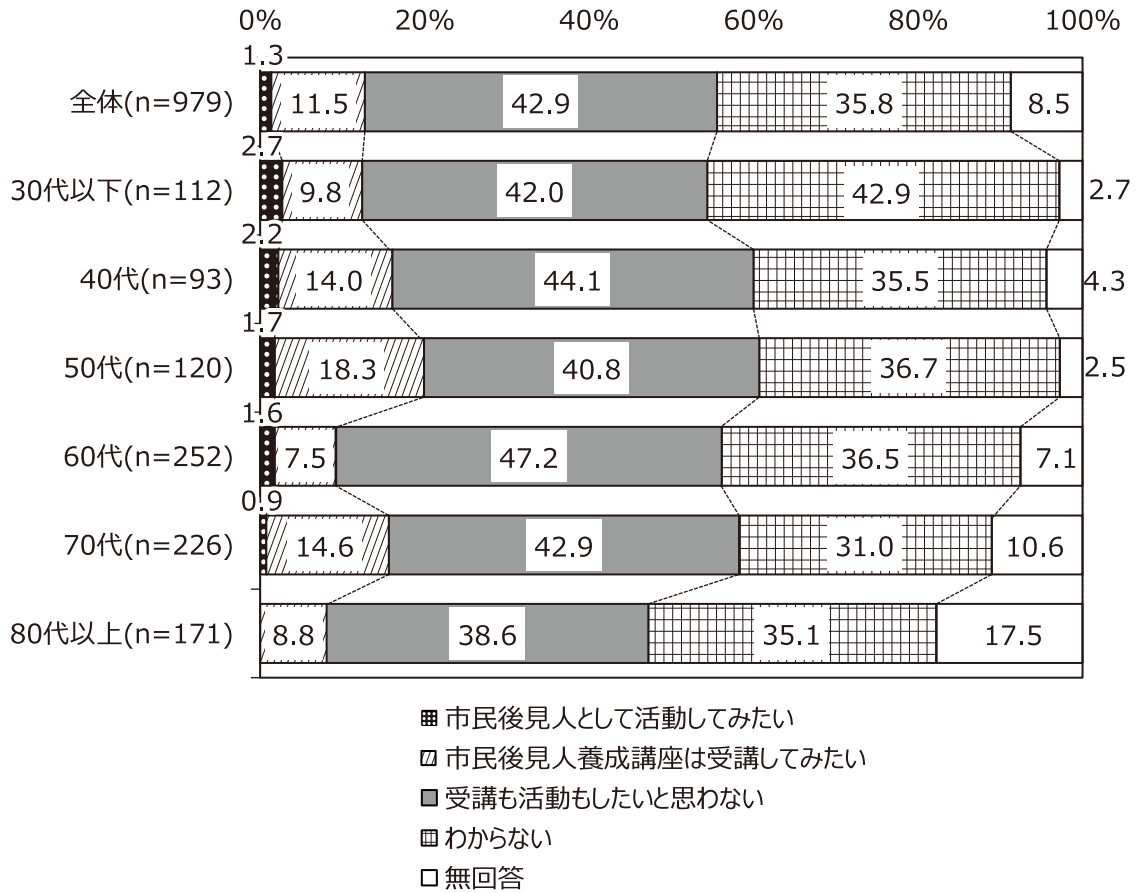
【クロス集計(年代別)】 0% 20% 40% 60% 80% 100%



問30. あなたは、市民後見人養成講座を受講し、市民後見人として活動してみたいですか。(単数回答)

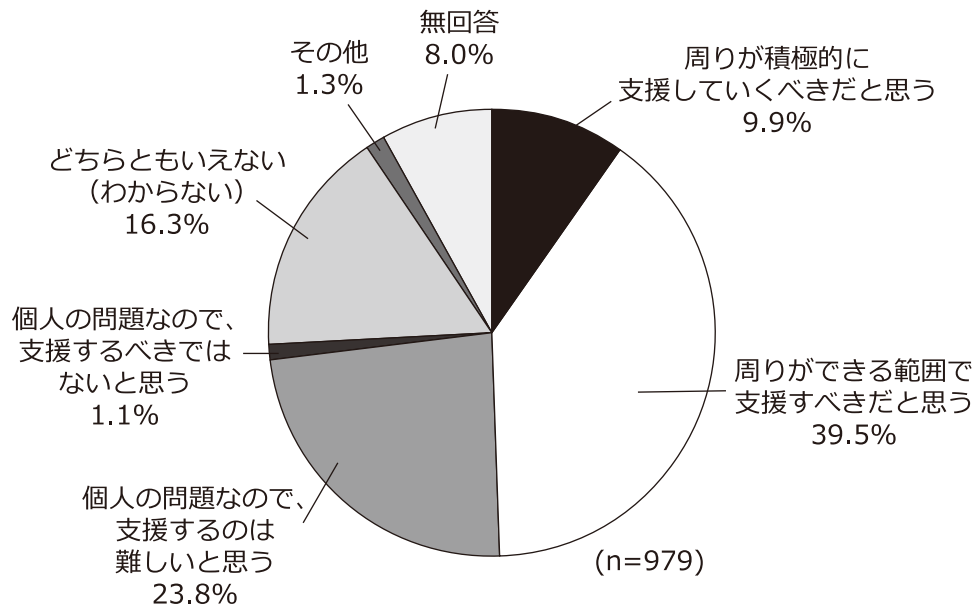
・全体では、「受講も活動もしたくない」と思わないが42.9%で最も多く、次いで「わからない」が35.8%、「市民後見人養成講座を受講してみたい」が11.5%などとなっている。
 ※12.8%の人が「活動」「受講」してみたいと回答

【クロス集計(年代別)】



問31. あなたは、自死対策についてどうお考えですか。(単数回答)

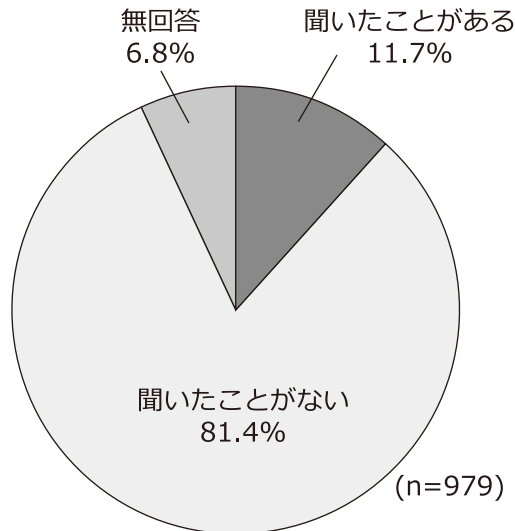
・「周りができる範囲で支援すべきだと思う」が39.5%で最も多く、次いで「個人の問題なので、支援するのは難しいと思う」が23.8%、「どちらともいえない」が16.3%などとなっている。



その他
警察官が月に4回くらい巡回するようにすべき
本当に困っている人へのみ協力する事の大切さを知ってほしい。
未来は自分もなる一人なので
とても難しい問題だと思う
原因は何？個人の問題なので難しいのでは？
相談体制の充実を図る
自死を選ぶ状況＝相談できるような状態でないと思うので。コロナ関係＝金銭での悩みが増加。
自殺をするかも思ったり、わかることがあるのかどうか分からない。
積極的支援とは？担当部署を設置しても座っているだけでは×。
病院と行政の連携が大切だと思います。
行政が積極的にかかわる問題だと思う

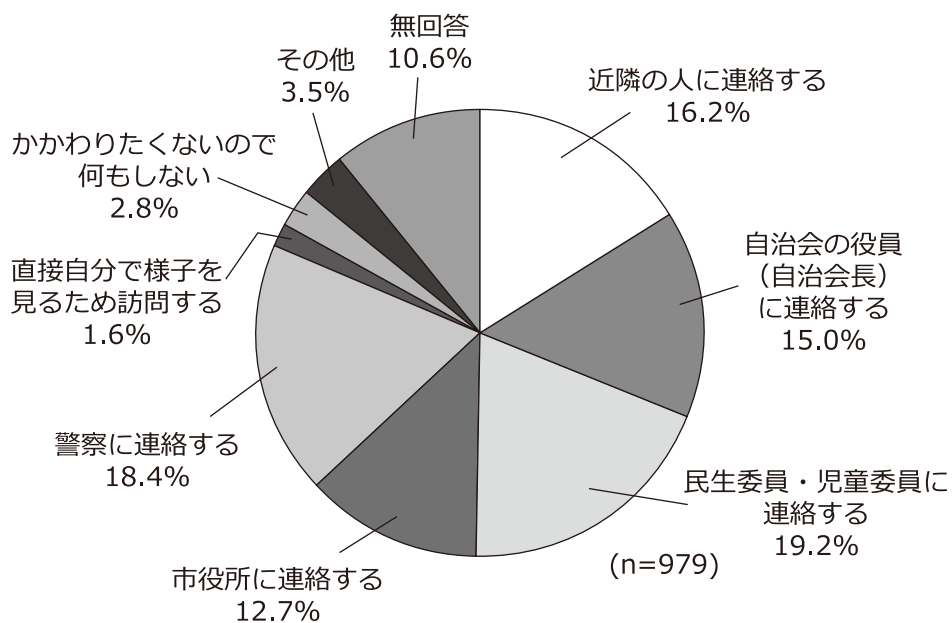
問32. あなたがお住まいの地域の出来事として、子ども・高齢者・障がい者に対する家族等による虐待について、聞いたことがありますか。(単数回答)

・「聞いたことがない」が約8割を占めている。



問33. もし、あなたの周囲で虐待が発生しているとあなた自身が思われたら、最初にどのように対応しますか。(単数回答)

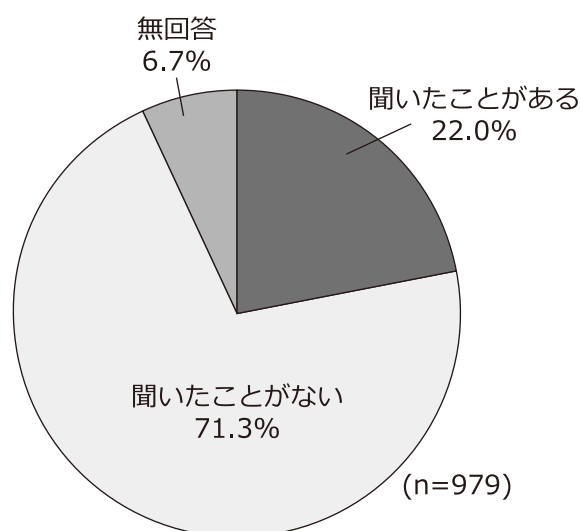
・「民生委員・児童委員に連絡する」が19.2%で最も多く、次いで「警察に連絡する」が18.4%、「近所の人に連絡する」が16.2%などとなっている。



その他	
家族に相談（11件）	知人に相談（6件）
分からない（2件）	保健師に相談
見守る	子どもなら学校
大人に言う	児童相談所に連絡する
あまり親しくない方なら警察に連絡、親しい方なら見て見ぬふりを するかもしれない。	

問34. あなたがお住まいの地域の出来事として、このような状況（子供の貧困）を聞いたことがありますか。（単数回答）

・「聞いたことがない」が約7割を占めている。



問35. あなたが、地域の福祉（生活）問題について、日頃感じていることや提案がありましたら、自由にご記入ください。（自由回答）

自由回答	
大田市に対する意見（39件）	自治会活動について（24件）
少子高齢化について（19件）	インフラ整備について（21件）
福祉サービスについて（17件）	近所付き合いについて（18件）
各種手当について（13件）	情報発信について（14件）
民生委員、児童委員について（14件）	
アンケートの内容・対象者について（11件）	
防災について（8件）	
個人情報、プライバシーの保護について（7件）	
行政と地域の連携について（4件）	子育て支援について（3件）
医療費について（2件）	障がい者に対する理解について（2件）
その他（62件）	

**第3次大田市地域福祉計画・
地域福祉活動計画**

令和3(2021)年度～令和6(2024)年度

令和3年3月

**大 田 市
大田市社会福祉協議会**